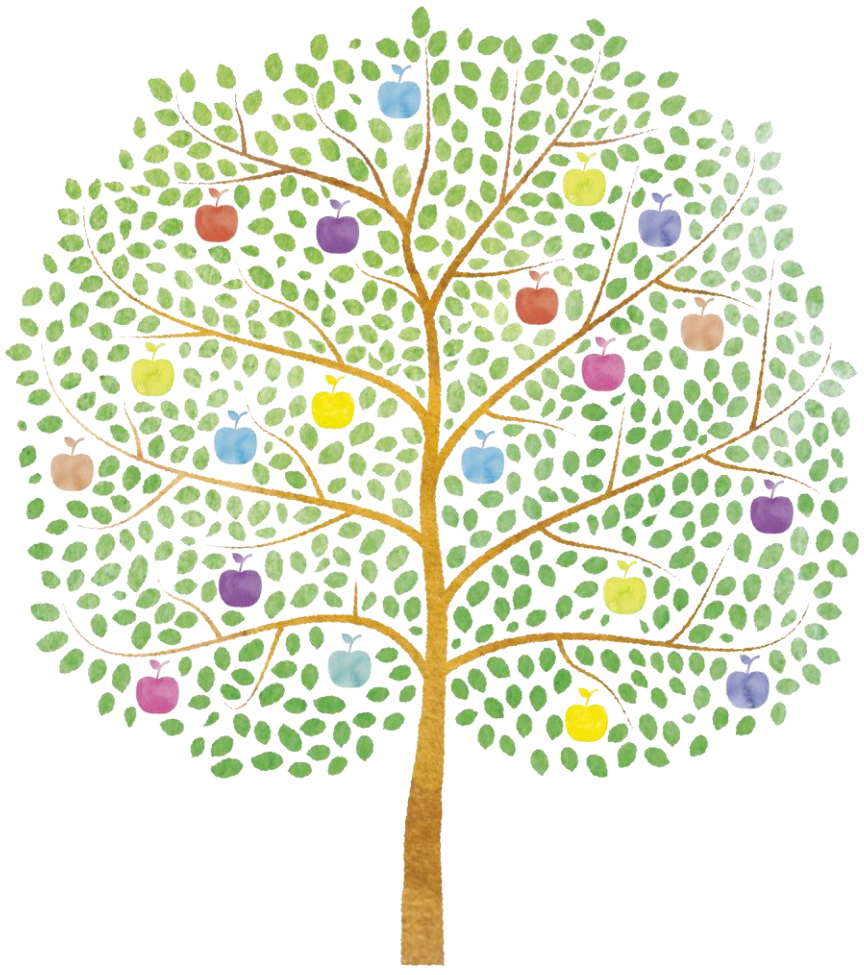
実践力のある保育者へのみちすじ

卒業後も、こどものために。



こどものために学ぶ大学

埼玉東萌短期大学

幼児保育学科（共学） ○保育士資格 ○幼稚園教諭二種免許状

目　次

1　埼玉東萌短期大学幼児保育学科における実践力のある保育者の育成　…… P.1
2　実践力の３つの要素　…… P.2
3　実践力を磨く３つの知　…… P.4
4　短期大学の学修の４つの段階と実践力のある保育者の育成　…… P.5
5　実践力育成のプロセス　…… P.6
6　短期大学の４つのフィールドにおける各段階の位置づけ　…… P.8
7　＜実践力のある保育者へのみちすじ＞における４つのフィールド
（1）　授業（学修）…… P.10
○　カリキュラム・フローチャート　…… P.12
○　カリキュラム・ツリー　…… P.14
○　カリキュラム・マップ　…… P.15
（2）　実習・ボランティア活動…… P.24
（3）　キャンパスライフ　…… P.25
（4）　キャリア形成　…… P.27
8　実践力のある保育者に必要な力の到達度評価のためのルーブリック　…… P.29

1　埼玉東萌短期大学幼児保育学科における実践力のある保育者の育成

現代社会において保育者不足が叫ばれて久しいですが、同時に保育者が果たす役割と責務は重要性を増しています。こうした状況の中、実践力のある保育者が求められているのです。

埼玉東萌短期大学幼児保育学科では実践力のある保育者の育成をめざしています。この冊子では、実践力のある保育者となっていくみちすじ、そのための本学の教育内容などを紹介していきます。



実践力のある保育者とは？ 本学ではこのように考えています。

- □　仕事としての保育活動や保育の業務を行う上での実践力のある保育者
- □　優れた実践力のある保育者
- □　子ども、保育、福祉への深い理解に立ち、湧き出る愛情を持って、子どもたちを全身で受けとめることのできる保育者

仕事に就いて保育活動や保育の業務を行っていく中で、実践力はますます磨かれていきます。そのもととなる、「新任保育者段階」での「優れた実践力」を皆さんが身につけていくことを、私たちはめざしています。

２　実践力の３つの要素

幼児保育学科は、優れた実践力を持つ保育者を育てていく学科です。

優れた実践力のある保育者となっていくためには、どのような保育者をめざしていったら良いのでしょうか？ 本学の建学の精神**『以愛為人』**、学校訓**『自尊』『創造』『共生』**は実践力のある保育者像を示しています。



＜実践力の３つの要素＞

自尊　確かな保育力を育てていくことが、自信を持って仕事のできる保育者につながります。

創造　得意な分野を育てて、挑戦することのできる保育者となることで、成長し続けていくことができます。

共生　子どもたちと、保護者と、一緒に働く仲間と、子どもの成長を支えるいろいろな人とつながる力。この力を持つことで、愛される保育者になっていくことができます。

＜実践力の３つの要素を支える『以愛為人』＞

このような実践力は、すべての生命あるものへの尊厳と慈愛、慈しみ思いやる心、包容力、あたたかいまなざし、人も自分も愛する心という人としてのあたたかい思いが底に流れて生まれるものです。この心は、本学の建学の精神である『以愛為人』と表現できます。

＜本学の学修活動を通して身につける実践力の３つの要素＞

短期大学の学修を通して、実践力の３つの要素について、次のような力を育てていきます。

自 尊	**自信を持って仕事のできる保育者** **＝確かな保育力を持つ保育者** ☐　理念と制度の理解 ☐　発達の理解 ☐　保育の方法と技術 ☐　計画立案、記録と評価 ☐　支援、相談、運営 ☐　養護、障害の理解と対応

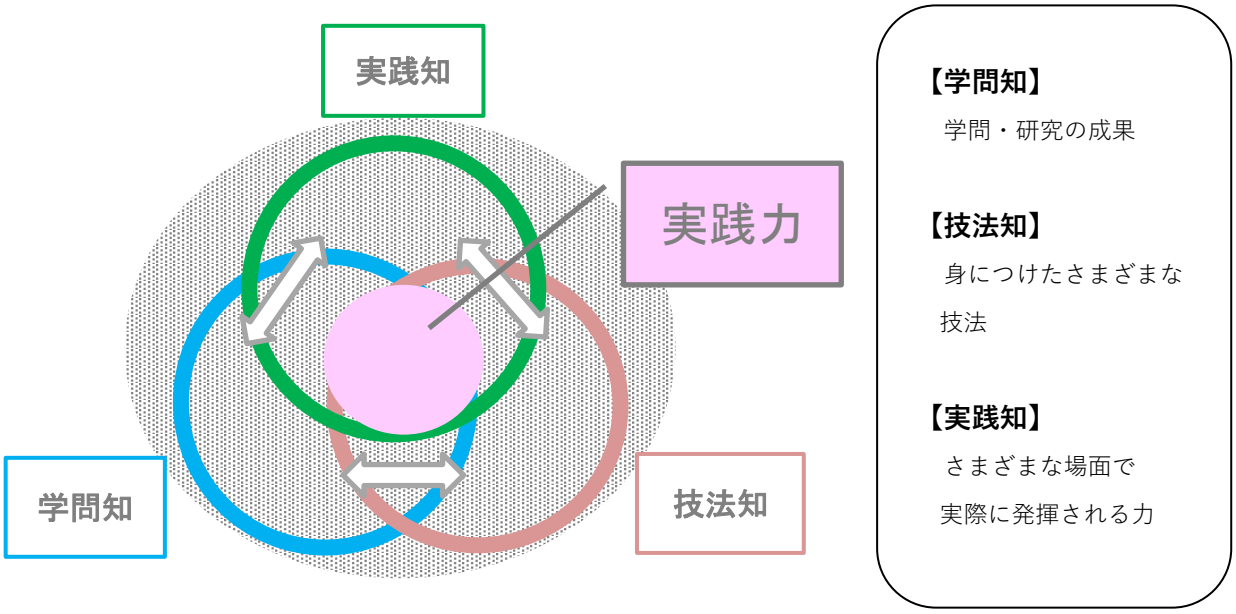
創 造	**成長しつづけることのできる保育者** **＝得意を育て、挑戦する保育者** ☐　省察力（振り返る力） ☐　課題発見力 ☐　問題解決力 ☐　継続力 ☐　論理的思考力 ☐　感動する力

共 生	**愛される保育者** **＝つながる力を持つ保育者** ☐　社会性とマナー ☐　コミュニケーション力 ☐　連携する力 ☐　多様な子どもやその家族と対応する力 ☐　違いを認め、他の人の考えを受け入れる力 ☐　豊かな感性

３　実践力を磨く３つの知

実践力を磨いていくプロセスの中では、「学問知」「技法知」「実践知」の３つの知のレベルの相互作用が起こります。

この「学問知」「技法知」「実践知」の重なり合うところに「実践力」はあり、バランスよくこの３つの知を育てていくことで、「実践力」は大きく豊かなものとなります。



実践力を形づくる３つのレベル

「学問知」⇔「技法知」

学問として身につけた知によって、保育の技術、相談の技術などの技法知が確かなものとなり、技法知の充実は、その中からの発見により、学問知を豊かにしてくれます。

「技法知」⇔「実践知」

ピアノの練習をしたり、保育技術のレパートリーを増やしたりと技法知を伸ばすことが、実習などの実践の場に活かされ実践知に結びつき、実践の場での体験が、さらに技法知の発展につながります。

「実践知」⇔「学問知」

学問知は実習やボランティア、就職先での保育実践を支えるものとなり、実践の中での体験やエピソードの理解が、学問知をさらに充実させていきます。

４　短期大学の学修の４つの段階と実践力のある保育者の育成

＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。

＊長期履修生は、この４つの段階を３年間に分けて学びます。

プレカレッジ（入門）	基礎段階 *groundwork*	基本段階 *framework*	発展段階 *development*	統合段階 *integration*	卒　業　後（保育者支援）
					

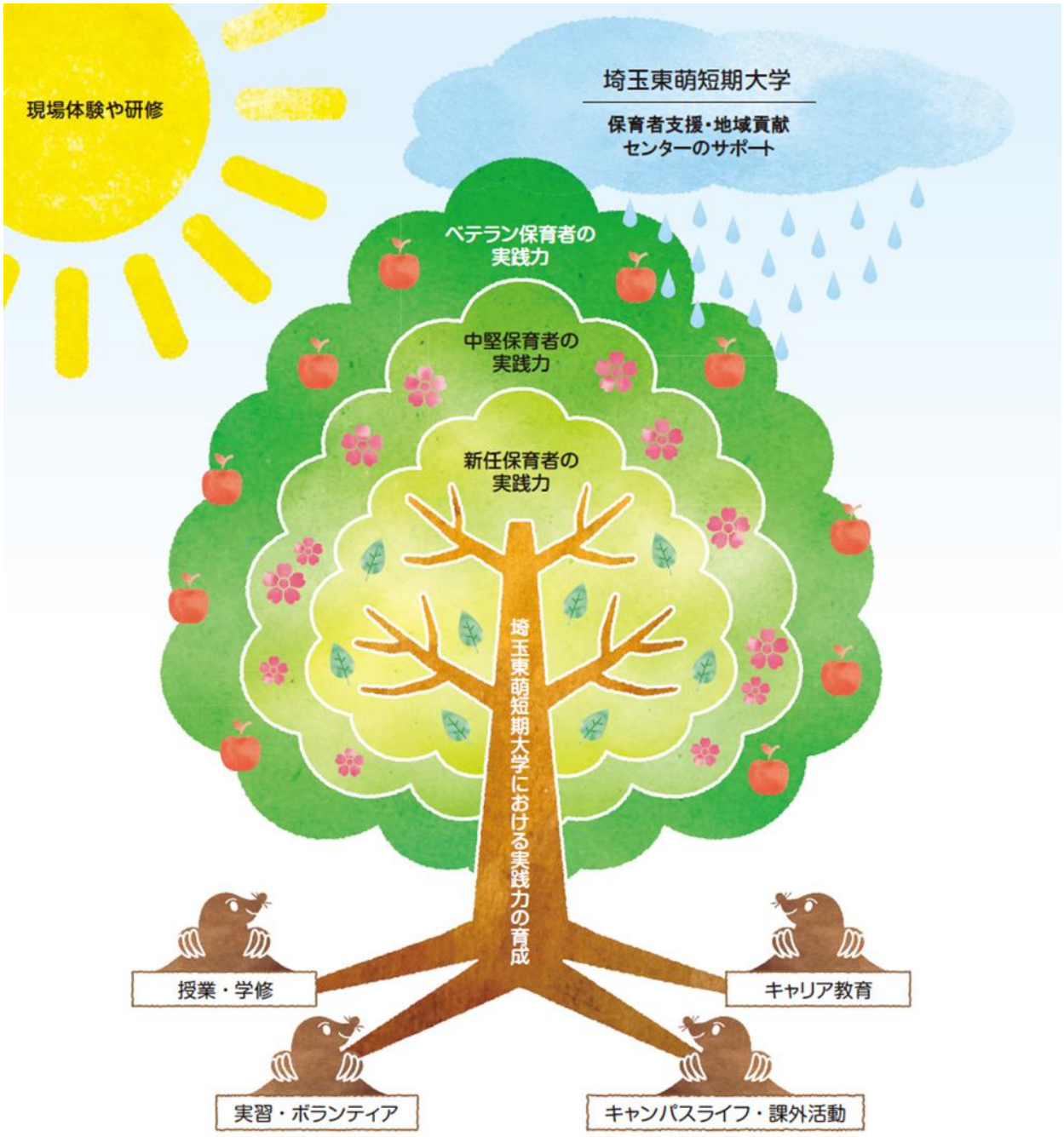
実践力のある保育者の育成		
基盤を形成する時期	保育力・指導力・支援力を育てる時期	学修のまとめと保育の仕事をつなげる時期

入学前のプレカレッジは短期大学での学修の入門の役割を果たします。

入学後、短期大学の学修は「基礎段階」「基本段階」「発展段階」「統合段階」の４つの段階を積み上げて進んでいきます。実践力のある保育者の育成のプロセスでは、この「基礎段階」「基本段階」が実践力のある保育者の「基盤を形成する時期」となります。この基盤を形成する時期に、土台をしっかり形成することはとても重要です。その土台の上に、「発展段階」に保育力・指導力・支援力を育てていきます。さらに「統合段階」では、これまでの学修全体のまとめを行うことで、保育の仕事に就いた中でさらに実践力を高めていくことができるように、課題を発見していきます。

卒業後も本学が設置する保育者支援・地域貢献センターの諸活動を通じて、卒業生の保育者としての実践力の向上を支援していきます。

5　実践力育成のプロセス



＜短期大学の４つのフィールド＞

実践力を育成していく短期大学の生活には、子ども・保育・福祉への理解を目指す「授業（学修)」授業（学修）の学びを確認する「実習・ボランティア」友人・教職員と力を合わせて創る「キャンパスライフ」そして将来をみつめる「キャリア形成」の４つのフィールドがあります。

＜短期大学における実践力の育成＞

４つのフィールドの活動からたくさんの栄養を吸収し、短期大学における実践力の太い幹を育てていきます。太い幹が育つためには、各フィールドの活動を充実させていくことが大切です。実践力は、心と体を大切にした毎日を過ごすことで積み上がっていきます。

＜卒業後の実践力の育成＞

短期大学で培った実践力は、「新任保育者としての優れた実践力」です。現場での仕事の中でのたくさんの体験、研修、そして本学の卒業生としての保育者支援・地域貢献センターのサポートによって、「新任保育者の実践力」は「中堅保育者の実践力」「ベテラン保育者の実践力」と育っていきます。卒業後も保育者支援・地域貢献センターが継続的にサポートします。優れた子どもたちや保護者の方々、そして地域から愛される保育者はこうして育っていきます。

6　短期大学の４つのフィールドにおける各段階の位置づけ

入　学　前		短期大学の４つの段階 ＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。 ＊長期履修生は３年間で４つの段階を学びます。				卒　業　後
プレカレッジ （入門）		基礎段階 *groundwork*	基本段階 *framework*	発展段階 *development*	統合段階 *integration*	卒業後 （保育者支援）
フィールド	授業（学修）	○短期大学の学修の導入 ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○発達のプロセスを理解する ○保育内容の５領域の意味とその相互関係を理解する	○保育所、幼稚園の観察・参加・部分実習を通し、児童福祉や幼児教育の社会的意義を理解する ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○保育技術の基本を身につける ○保育者としてのあり方を考える	○乳児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ ○保育技術を実践に活かし、保育力・指導力を高める ○指導計画の立案、実践、記録、評価を学び、省察することの大切さを知る	○学修の総仕上げとまとめを行う ○省察力を高める ○保育者としての仕事と、短期大学での学修を結びつける ○課題を発見し、保育者として卒業後も成長しつづけていく意識を養う	
	実習	前期　**保育現場体験** 保育の現場に触れる。子どもたちの園での姿を観察する。	11月　**教育実習（幼稚園）Ⅰ** 2月　**保育実習Ⅰ** 観察・参加・部分実習を通じて、幼児教育・保育の基本を理解する。発達に即した保育者の関わり方を理解する。身につけた保育技術を実践する。	5月　**保育実習Ⅱ** 多様な対象者の理解と支援を実践的に学ぶ。 6月　**教育実習（幼稚園）Ⅱ** 保育の理論と技術の総合的な体験。それまでの実習での苦手の克服。	11月　**保育実習Ⅲ** **保育実習Ⅳ** 学修の集大成。保育者としての自己の課題の発見と理解。	

フィールド	キャンパスライフ		○短期大学生活の理解 ○友人や先輩、教員と知り合い、親睦を図る ○学修を中心とした生活習慣を整える ○学友会やクラブ活動に参加する	○学修を中心とした自律的な生活習慣の確立 ○友人や先輩、教員、実習先などの学外の方とのコミュニケーションを学び、課題を発見する ○行事に協力して取り組む ○行事への取り組みを通して、企画、立案、実施、活動評価を行う ○上級生より活動の引き継ぎを受け、責任感を養う	○学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、自律的な生活習慣の確立 ○短期大学の上級生としての自覚を持ち、卒業・就職までの流れをつかむ ○新入生を迎え、学友会、クラブ活動などにおいて、リーダーシップを発揮する ○自身と異なる他者を受け入れることを学ぶ	○行事への取り組みを通して、全体を把握した上で、企画、立案、実施、活動評価を行う。その中で、下級生の活動を支援、指導する ○自立に向けた準備に取り組む ○学生生活全体を振り返り、卒業後の課題とそれへの取り組みを自覚する
	キャリア形成	キャリア・デザイン・プランニング	○自己理解 ○働くことの意義を理解し、ライフデザインを考える ○卒業後の進路に向けて、短大生活の見通しを立てる	○進路や職業に関する情報を収集する ○保育の仕事について理解をすすめる	○自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいかの目標を見い出す	○学修のまとめを行い、保育の仕事とつなげていく ○卒業後のキャリア形成について見通しをもつ
		就職活動	○就職についての基礎的な知識を身につける	○就職活動に必要なスキルを身につける ○公務員志望者は試験対策を行う	○希望業種および就職志望先を決定する ○就職試験の準備を行い、受験する ○公務員試験の受験	○就職先の決定 ○就職先へ必要書類を提出する ○就職前研修等への参加

7　＜実践力のある保育者へのみちすじ＞における４つのフィールド

（1）　授業（学修）

入　学　前	カリキュラム・フローチャートの骨格となる４つの段 ＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。 ＊長期履修生は３年間で４つの段階を学びます。				卒　業　後
プレカレッジ （入門）	基礎段階 *groundwork*	基本段階 *framework*	発展段階 *development*	統合段階 *integration*	卒業後 （保育者支援）
課題	○短期大学の学修の導入 ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○発達のプロセスを理解する ○保育内容の５領域の意味とその相互関係を理解する	○保育所、幼稚園の部分・参加・観察実習を通し、児童福祉や幼児教育の社会的意義を理解する ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○保育技術の基本を身につける ○保育者としてのあり方を考える	○乳児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ ○保育技術を実践に活かし、保育力・指導力を高める ○指導計画の立案、実践、記録、評価を学び、省察することの大切さを知る	○学修の総仕上げとまとめを行う ○省察力を高める ○保育者としての仕事と、短期大学での学修を結びつける ○課題を発見し、保育者として卒業後も成長しつづけていく意識を養う	
各段階の特徴を示す科目	基礎ゼミ 保育原理 教育原理 社会福祉 教育心理学 子どもの保健 保育内容総論 保育技能Ⅰ	基本ゼミ 子ども家庭福祉 教職概論（保育者・教師論） 保育技能Ⅱ 教育実習（幼稚園）Ⅰ 保育実習Ⅰ	発展ゼミ 社会的養護Ⅰ 子ども家庭支援論 障害児保育Ⅱ 乳児保育Ⅱ 教育課程論 保育実習Ⅱ 教育実習（幼稚園）Ⅱ 幼児教育方法論	統合ゼミ 保育・教職実践演習（幼稚園） 保育内容（総合表現）指導法 特別支援教育 子ども理解の理論と方法 保育実習Ⅲ 保育実習Ⅳ	

授業・学修の４つの段階をスムーズにすすめていくために

〇入学から卒業までは、それぞれ「基礎段階」「基本段階」「発展段階」「統合段階」と位置づけられます。

〇短期大学生活は短い学生生活ではありますが、各段階によって課題が異なり、授業の内容や進み方、学生生活の様子が変わってきます。
一つひとつのステップを確実に進んでいきましょう。

〇そのためには「授業を大切にすること」がなにより重要です。欠席・遅刻をしない、テキストや授業に必要な道具の準備、集中した
授業への参加など、常に確認していきましょう。

〇家庭学習により、授業で学んだことを定着させていきましょう。そのことが、次の段階の基盤になっていきます。
わからないところは、担当の先生に早めに質問しましょう。

〇「授業概要（シラバス)」には、各授業科目に関する必要な情報が詰まっています。計画的な学修に取り組めるよう活用していきましょう。

〇「自己実現ノート（学修ポートフォリオ)」は学生の学修のステップを記録・整理し、次の課題を発見していくために役立ちます。
記録と振り返りにより、自主的な学修を進めていくことができます。

埼玉東萌短期大学幼児保育学科

幼児保育学科の学習成果

LO①:	LO②:	LO③:	LO④:
「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。

学修目標

基礎段階　*groundwork*	基本段階　*framework*
○短期大学の学修の導入	○保育所、幼稚園の観察・参加・部分実習を通し、児童福祉や幼児教育の社会的意義を理解する
○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる	○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる
○発達のプロセスを理解する	○保育技術の基本を身につける
○保育内容の5領域の意味とその相互関係を理解する	○保育者としてのあり方を考える

実践力のある

基盤を形成する時期

保育現場体験

教育実習（幼稚園）Ⅰ

保育実習Ⅰ

LO：⑥⑦

短期大学の学修の導入
【基礎演習科目】
基礎ゼミ

LO：③④

保育・教育・福祉の基礎
【専門・基礎理論科目】
保育原理　教育原理　社会福祉
【専門・保育技能】
保育技能Ⅰ

LO：④⑧

発達のプロセスの理解
【専門・対象理解科目】
教育心理学　子どもの保健

LO：⑤

5領域の意味と相互関係の理解
【専門・内容方法科目】
保育内容総論

LO：④⑤

保育所、幼稚園の観察・参加実習から、児童福祉や幼児教育の社会的意義の理解
【専門・実習科目】
教育実習（幼稚園）Ⅰ

LO：④

保育者としてのあり方を考える
【基礎演習科目】
基本ゼミ
【専門・基礎理論科目】
教職概論（保育者・教師論）

LO：④⑤

保育・教育・福祉の基礎
【専門・基礎理論科目】
子ども家庭福祉

LO：⑥

保育技術の基本を身につける
【専門・保育技能】
保育技能Ⅱ

カリキュラム・フローチャート

Learning Outcomes（LO）

LO⑤:	LO⑥:	LO⑦:	LO⑧:
保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。

発展段階　*development*	統合段階　*integration*
○乳児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ ○保育技術を実践に活かし、保育力・指導力を高める ○指導計画の立案、実践、記録、評価を学び、省察することの大切さを知る	○2年間の学修の総仕上げとまとめを行う ○省察力を高める ○保育者としての仕事と、短期大学での学修を結びつける ○課題を発見し、保育者として卒業後も成長し続けていく意識を養う

保育者の育成

＊2年制コースは2年間で4つの段階を学びます。
＊長期履修生は3年間で4つの段階を学びます。

保育力・指導力・支援力を育てる時期	学修のまとめと保育の仕事をつなげる時期
保育実習Ⅱ 教育実習（幼稚園）Ⅱ	保育実習ⅢまたはⅣ

LO：④⑤

指導計画の立案、実践、記録、評価を学び、省察することの大切さを知る
【専門・実習科目】
教育実習（幼稚園）Ⅱ
【専門・内容方法科目】
教育課程論

LO：④⑤⑥

乳児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ
【専門・基礎理論科目】
社会的養護Ⅰ、子ども家庭支援論
【専門・内容方法科目】
障害児保育Ⅱ、乳児保育Ⅱ、幼児教育方法論
【専門・実習科目】
保育実習Ⅱ

LO：⑥

保育力・指導力を育み、実践に活かす方法を考える
【基礎演習科目】
発展ゼミ

LO：④⑤⑥

2年間の学修の総仕上げとまとめを行う
【専門・実習科目】
保育実習Ⅲ、保育実習Ⅳ
【専門・内容方法科目・教育内容指導法】
保育内容（総合表現）指導法
【専門・総合演習科目】
保育・教職実践演習（幼稚園）

LO：④⑤⑥

省察力を高める
【専門・実習科目】
保育実習Ⅲ、保育実習Ⅳ
【専門・対象理解科目】
特別支援教育、子ども理解の理論と方法
【専門・総合演習科目】
保育・教職実践演習（幼稚園）

LO：⑧

保育者としての仕事と、短期大学での学修を結びつける
【専門・総合演習科目】
保育・教職実践演習（幼稚園）

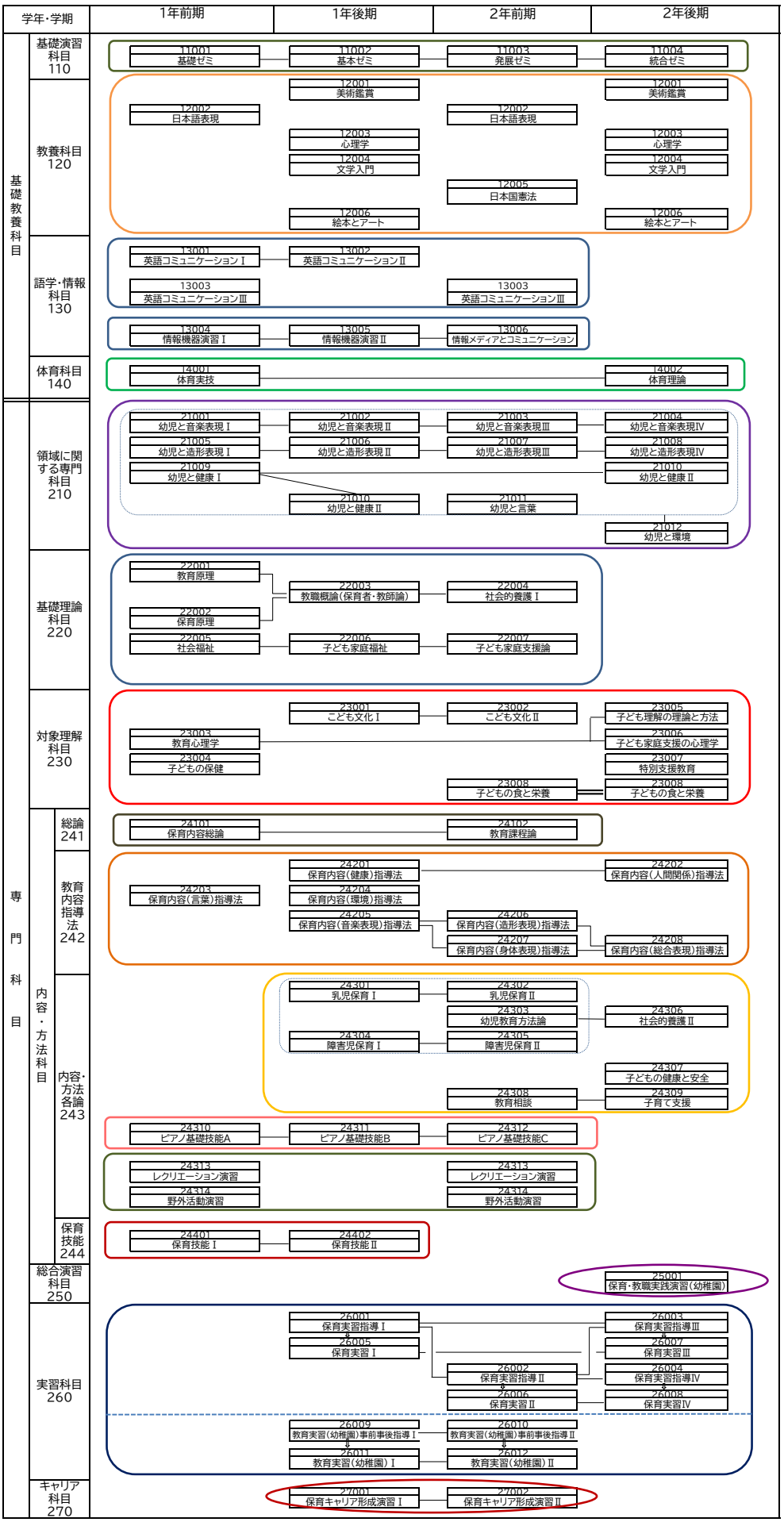
LO：④⑤⑥

課題を発見し、保育者として卒業後も成長しつづけていく意識を養う
【基礎演習科目】
統合ゼミ
【専門・実習科目】
保育実習Ⅲ、保育実習Ⅳ
【専門・内容方法科目・教育内容指導法】
保育内容（総合表現）指導法
【専門・総合演習科目】
保育・教職実践演習（幼稚園）

卒業・短期大学士（保育学）・保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得

実践力のある保育者

○ カリキュラム・ツリー



短期大学の2年間で学修する授業科目は、左の「カリキュラム・ツリー」に示されているように構成されています。

授業科目は基礎教養科目と専門科目から構成され、さらにそれぞれの中に授業科目の性格によってグループ分けされています。カリキュラム・ツリーではそのグループを色分けした囲み線で示しています。

授業科目の上に表示されている数字は埼玉東萌短期大学授業科目ナンバリングで定められるナンバリングコードを示しています。また、科目間の線は授業科目のつながりを示しています。

段階ごとの学修を積み上げていくことで、保育者としての実践力が身につくように配置されています。

カリキュラム・マップとは？

カリキュラム・マップには、本学で学ぶことのできるすべての科目の位置づけが記載されています。各授業の到達目標を確認し、その目標を自覚して授業や課題に取り組むことで学修の効果が高まります。

マップの右に、本学の「学習成果」とそれぞれの授業科目との関係が示されています。「学習成果」とは、本学幼児保育学科の学修の中で学生が身につける成果を示したものです。８つの「学習成果」が身につくように、各授業科目が構成されています。この８つの「学習成果」を達成することで、短期大学士（保育学）の学位を授与するにふさわしい能力を身につけていくことができます。

『学習成果』

埼玉東萌短期大学幼児保育学科では、総合的な教育課程を通して、以下の学習成果を達成する。

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。

埼玉東萌短期大学　幼児保育学科　カリキュラム・マップ（2026年度入学生）

（◎印:特に重要な関係がある。　○印:重要な関係がある。　△印:ある程度関係がある。）

科目区分		授業科目 ナンバリングコード	授業の到達目標	学習成果							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
				「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人となる。
基礎教養科目	基礎演習科目 110	基礎ゼミ 11001	1 学問的な“学び”の意味を理解し、学生として求められる学修方法や生活態度を理解する。 2 参加実習を通して保育の現場に触れ、子どもとの関わりを通して子どもについての理解を深める。 3 本学の建学の精神である「以愛為人」と3つの学校訓「自尊」「創造」「共生」について理解を深める。	◎	◎	○	○	○	○	○	○
		基本ゼミ 11002	1 学修を中心とした自立的な生活習慣を確立し、行事への取り組みを通して企画・立案・実施・活動評価を実施する。 2 幼稚園と保育園の実習で学んだことを再確認することで幼稚園教諭や保育士としての使命を自覚し、職業としての理解を深める。 3 卒業後の進路選択に向けて働くことの意義を理解し、就職活動に必要なスキルを身につける。	○	○	◎	○	○	◎	○	○
		発展ゼミ 11003	1 学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、社会人力（コミュニケーション能力、対人関係能力、協調性など）を養う。 2 保育の理論と技術の総合的な体験を通して多用な対象者の理解と支援の方法について理解を深める。 3 自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいのか目標を見出す。	○		○		◎	◎	○	○
		統合ゼミ 11004	1 グループ活動を通して学問的な研究方法や研究倫理についての考え方を実践的に学ぶ。 2 2年間の学生生活全体を振り返り、卒業後の課題とそれに向けての取り組みを自覚する。 3 保育者としての職務や社会的使命について理解を深め、卒業後のキャリア形成について見通しを持つ。	○		○		○	○	◎	◎

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
基礎教養科目	教養科目 120	日本語表現 12002	1 日本語能力の基本的なスキルを伸長させ、正しい日本語能力を育てる。 2 国語の本質的機能を理解し、目的に応じた文章表現ができるようにする。 3 文章表現活動を通じて日本文化の特徴を理解し、思考と想念の深まりを目指す。 4 様々なシーンに対応できる敬語表現を習得し、正確にやりとりができる対話力を身につける。 5 文章表現の基盤となる発想とボキャブラリーの拡充を図る。	○	◎				○		
		文学入門 12004	1 文学教材を利用して現代の子どもや家族を取り巻く社会の実相を理解する。 2 文学鑑賞を通して人物の観察眼を養い、作品そのものの魅力を感得する。 3 文学教材を利用して気づき、考え、意見をもつ機会を得る。 4 ジャンルを問わない幅広い読書習慣を身につける。 5 媒体の違った表現（文学・映像等）から論点を導き出し、それを文章化して他者へ正確に伝える文章能力を身につける。	○	◎	○				△	
		心理学 12003	1 人間の心や行動を理解するための基礎的な知識を持つ。 2 人間を理解するための科学的な姿勢と視点を持つ。 3 人間の心や行動について臨床心理学的視点を持つ。 4 人間の心と脳の関係について神経心理学的視点を持つ。	○	◎					○	△
		日本国憲法 12005	1 憲学上の基本知識・学習方法、及び、（憲）法学的なものの考え方を習得し、それらを用いて、身近なものからそうでないものまで、いくつかの社会現象に基本的分析を施すことができる。 2 講義で扱った主要な憲法学上のテーマについて、憲法学上の基本知識（概念、学説、判例など）を論述し、かつ、その当否を検討することができる。	△	◎		△		◎	○	△
		美術鑑賞 12001	1 美術作品を鑑賞することで知識・教養を身につける。 2 美術家の思考を考察することで豊かな感性を知る。 3 美術史を通して世界の美術に興味関心をもつ。	○	◎					○	
		絵本とアート 12006	1 絵本を実際に作りながら、絵本の知識と創作技法を習得する。 2 制作を踏まえて、絵本が子どもに及ぼしている影響について理解を深める。 3 児童文化財の魅力を探り、美術表現の意義を学ぶ。	○	◎				◎	○	

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
基礎教養科目	語学・情報科目 130	英語コミュニケーションⅠ 13001	1 英語の基礎とコミュニケーションの基礎について学ぶ。 2 英語の４つの技能の中で、特に話す能力・コミュニケーション能力を高める。 3 他者と協調して課題をこなしてゆくことの大切さを知る。	○	○				◎	△	
		英語コミュニケーションⅡ 13002	1 現代における英語コミュニケーション能力の大切さを理解し、その基本を学ぶ。 2 英語の学習を通して英語圏の文化の特徴について理解を深める。 3 幼児英語を学習し、英語圏の言語的環境と幼児の心身の生活特性の関連について学ぶ。	○	○				◎		△
		英語コミュニケーションⅢ 13003	1 英語を学ぶことを通して、多文化への理解を深める。 2 英語力を伸ばし、異なる文化的背景を持つ方とのコミュニケーションの方法を身に付ける。 3 英語力を用いた保育の技術を身に付け、様々なルーツを持つ子どもたちや保護者とともに活動できる基盤を身に付ける。	○	○				◎	◎	△
		情報機器演習Ⅰ 13004	1 保育者として従事する上で、必要なPCスキル（おたよりや議事録の作成等）を身につける。 2 Wordを活用し、文章の記述方法、画像の挿入方法、吹き出しの入れ方等を学ぶ。 3 Excelを活用し、シートの作成や計算式の取り扱いといった一般教養を身につける。 4 WEB上にある画像データの取り扱い方を理解する。		○				◎	△	
		情報機器演習Ⅱ 13005	1 保育者として従事する上で必要なPCスキルを学ぶ。 2 運動会や遠足のしおり等を作成できるようになる。 3 保育現場で必要とされる楽曲/動画編集の技術を会得する。 4 保育活動でICTを活用する方法を学ぶ。		○				◎		△
		情報メディアとコミュニケーション 13006	1 保育者として従事する上で必要なPC操作の知識を身につける。 2 ビジュアルデザインの視点から保育書類を作成することができる。 3 コンピュータを用いた課題制作を通して、コンピュータをコミュニケーションツールとして用いるためのスキルを身につける。	○	◎				○	◎	
	体育科目 140	体育理論 14002	1 生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル（生活様式）を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 2 誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 3 授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。		○				◎	◎	△
		体育実技 14001	1 様々な運動を通して、保育現場でも子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。 2 基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。 3 生涯に渡ってスポーツに親しむ生涯スポーツの理念と実践力を身につけるようにする。		○				◎	◎	△

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	領域に関する専門科目210	幼児と健康Ⅰ 21009	1 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 2 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 3 幼児期の怪我の特徴や病気について説明できる。 4 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解する。	△		◎		○	◎		○
		幼児と健康Ⅱ 21010	1 乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題や特徴を説明できる。 2 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 3 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。 4 幼児期における運動遊びの具体的な内容について理解・修得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける。			○		○	◎	△	○
		幼児と環境 21012	1 子どもを取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。 2 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 3 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。 4 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。	△		○		○	◎	△	○
		幼児と言葉 21011	1 人間にとっての言葉の意義や機能を理解している。 2 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解している。 3 子どもにとっての児童文化財の意義を理解している。 4 保育実践に役立つ言語表現活動とその指導法を修得する。 5 保育の現場における言語表現活動の実際を学習する	○				○	◎	△	○
		幼児と音楽表現Ⅰ 21001	1 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2 表現を生成する過程について理解している。 3 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4 様々な表現の基礎的知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。	△		◎		○	◎		○
		幼児と音楽表現Ⅱ 21002	1 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 2 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 3 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 4 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。			○		○	◎	△	○
		幼児と音楽表現Ⅲ 21003	1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 3 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 4 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。		△		○	○	◎		○
		幼児と音楽表現Ⅳ 21004	1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 3 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 4 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。			△		○	◎		○
		幼児と造形表現Ⅰ 21005	1 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2 造形表現を生成する過程について理解している。 3 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。			○		◎	◎		△
		幼児と造形表現Ⅱ 21006	1 造形表現を生成する過程について理解している。 2 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4 様々な造形表現の基礎的な知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。			○		◎	◎		△
		幼児と造形表現Ⅲ 21007	1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4 様々な造形表現の基礎的な知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。			○		◎	◎		△
		幼児と造形表現Ⅳ 21008	1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 3 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。			○		◎	◎		△

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	基礎理論科目220	教職概論(保育者・教師論) 22003	1 我が国における今日の保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園における保育・幼児教育や、保育職・教職の社会的意義を理解している。 2 保育・教育の動向を踏まえ、今日の保育者・教員に求められる専門性を考察し、役割や倫理について理解している。 3 保育者・教員の職務内容の全体像や、保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務を学び、制度的な位置づけを理解している。 4 園の担う役割が拡大・多様化する中で、園が内外の専門家等と連携・協働・分担して対応する必要性について理解している。 5 保育者・教員の資質向上とキャリア形成について理解する。		○		◎			△	○
		教育原理 22001	1 教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。具体的には、人類史の中で蓄積されてきた教育の諸原理の基礎を学び、教育とはどのような営みであるか、その本質を理解するための基礎を培う。 2 教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解している。具体的には、世界と日本の教育の理念や制度を学ぶとともに、教育の歴史的な展開の実相に触れ、保育者、幼児教育者となるための教育観の基礎を培う。さらに、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解している。 3 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。具体的には、保育者・幼児教育者に求められる教養や専門的知識、実践力、使命感や子どもを受け止め理解しようとする力など、保育者・幼児教育者に必要な人間的資質について教育思想家の思想を基礎に学習し、自己の理想とする保育者・幼児教育者像を確立するための基礎を培う。 4 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解している。具体的には、保育を支える法制度がどのような法律によって支えられているか学ぶことを通じて、保育者は法的知見が必須であり、遵法精神を身につけている必要があることを理解している。 5 園と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解している。今日の幼稚園や保育所、認定こども園などの施設で実施される保育・教育は、地域社会や家庭との連携が求められている。本授業では地域社会との連携について取り上げ、子どもを育てる為には、家庭と地域社会も含めた包括的な支援が必要であると理解し、地域に開かれた園を構築する力の基礎を培う。 6 園の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解している。具体的には、保育や幼児教育に携わる保育者や幼児教育者として災害等に対してどのように対応するか、そして事故を未然に防ぎつつも子どもの経験や交際を豊かにするためには取り組みが必要か考える基礎を培う。		○		◎			△	○
		保育原理 22002	1 保育の意義及び目的について理解する。 2 保育に関する法令及び制度を理解する。 3 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5 保育の現状と課題について理解する。			◎	○	○			△
		子ども家庭福祉 22006	1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護について理解する。 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	○	△	○	◎				
		社会福祉 22005	1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について理解する。			△	◎	△	○		○
		子ども家庭支援論 22007	1 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			△	◎	△	○		○
		社会的養護Ⅰ 22004	1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5 社会的養護の現状と課題について理解する。		△	◎	△	○		○	

科目区分			授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	対象理解科目230		こども文化Ⅰ 23001	1 こどもについて理解すると共に多様な絵本について知り、追体験的に学習する。 2 保育実践における絵本を活かした活動について知る。□ 3 人間形成におけるこども文化の役割の重要性を知る。	○		△	◎	○			
			こども文化Ⅱ 23002	1 こども理解を深めると共に、絵本に触れ、多様なこども文化を追体験的に学習し、それらを活かす道を考える。 2 保育実践における環境構成に絵本を活かし、絵本の読み聞かせやお話し会の企画、絵本の紹介など創造的保育者となることを目指す。 3 こどもの人間形成における絵本の役割の重要性を理解する。	○		△	◎	○			
			教育心理学 23003	1 子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解している。 2 子どもの学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解している。 3 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 4 子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 5 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を修得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		○		◎			○	△
			子ども家庭支援の心理学 23006	1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を修得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を修得する。 3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4 子どもの精神保健とその課題について理解する。			○	◎		△		○
			特別支援教育 23007	1 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解している。 2 特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を理解している。 3 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。	△		○	◎	◎	○		
			子ども理解の理論と方法 23005	1 保育・幼児教育の実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2 子ども理解についての知識を身につけ、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基礎的な考え方や態度を理解する。 3 子ども理解の方法を具体的に理解する。 4 子ども理解に基づく保育者の援助や対応の仕方、方法、態度を理解する。				○	○	◎		△
			子どもの保健 23004	1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			○	◎	○	△		◎
			子どもの食と栄養 23008	1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的な知識を修得する。 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、内容等について理解する。 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。			○	◎	○		○	
	内容・方法科目	総論241	教育課程論 24102	1 教育・保育課程が有する役割・機能・意義を理解している。特に教育・保育内容、課程、方法、実践、評価の関係を理解する。 2 教育・保育課程編成の基本原理および園の実践に即した課程編成の方法を理解している。 3 教科・領域、学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義、カリキュラム・マネジメントの意義を理解している。		△	○	○	◎	○		△
			保育内容総論 24101	1 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育・教育の目的・目標、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を理解する。 保育・幼児教育の基本と全体的な構造を踏まえ、5領域のねらい及び内容を理解している。 2 子どもの姿や発達の特徴を知り、その学びの過程を理解し、保育内容や環境構成の重要性を理解するとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法の基本設計の視点を身につける。 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。 5	△		△	○	◎			○

科目区分			授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	内容・方法科目	教育内容指導法242	保育内容(健康)指導法 24201	1 乳幼児期の健康、基本的生活習慣の指導に関する知識や技能を身につけている。 2 幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。 3 健康に関する教材や指導案作成、模擬保育の体験を通して指導法の基本を理解することができる。 4 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解している。 5 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。			○	○	◎			△
			保育内容(人間関係)指導法 24202	1 5領域における人間関係の内容とねらいを理解する。 2 保育現場における人間関係のあり方を学ぶ。 3 「人とかかわる力」について考察を深める。 4 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 5 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。			○	○	◎			△
			保育内容(環境)指導法 24204	1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解している。 2 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。 3 保育現場におけるのぞましい保育環境と環境構成について考える。			○	○	◎			△
			保育内容(言葉)指導法 24203	1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している。 2 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。 3 保育現場で子どもが言葉を修得していく過程を、子どもの発達段階に応じて学修する。 4 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解しながら、子どもの人間形成において言葉を修得することの重要性を理解する。 5 子どもが豊かに言葉の修得ができるための指導・援助の方法を具体的に身につける。	○			○	◎	◎		△
			保育内容(音楽表現)指導法 24205	1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 2 子どもが音楽表現の経験から身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。			○		◎	◎		△
			保育内容(造形表現)指導法 24206	1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 2 子どもが造形表現の経験から身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。			○		◎	◎		○
			保育内容(身体表現)指導法 24207	1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 2 子どもが身体表現の経験から身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。			○		◎	◎		○
			保育内容(総合表現)指導法 24208	1 多様な表現（言葉・音楽・造形・身体など）を総合した表現活動の実際を学習し、理解している。 幼児の生活と人間形成にとって、保育内容の５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が、表現 2 活動において総合的に構成されることの重要な意義を理解している。 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけて 3 いる。	○				◎	◎		○

科目区分			授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	内容・方法科目	内容・方法各論243	幼児教育方法論 24303	1 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。そのために幼児教育の方法的諸原理を学び、その方法的諸原理は子どもの生きる権利、その発達の特性の深い理解を基礎として構築されていくものであることを理解している。 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。具体的には、様々な教育方法についての実践的 2 感覚を養い、これからの社会を担う子どもたちに育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた幼児教育活動及び評価の基礎的な考え方を理解している。 3 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている。その結果として、遊びを通しての主体的・対話的で深い学びを実現するために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができるようになる。		△		○	◎	○	△	
			乳児保育Ⅰ 24301	1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			△		○	◎	△	
			乳児保育Ⅱ 24302	1 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や、関わりの基本的な考え方について理解する。 2 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4 上記１～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			△		○	◎	△	
			子どもの健康と安全 24307	1 保育における保健的な観点に基づく保育環境整備や援助について理解する。 2 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 4 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。 5 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 6 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的な取り組みや保健活動の計画・評価等についても具体的に理解する。			△	◎	○	○		◎
			障害児保育Ⅰ 24304	1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその他の保育について理解する。 2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。	△		○	◎	◎	○		
			障害児保育Ⅱ 24305	1 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 2 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 3 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。			△	○	○	◎		△
			社会的養護Ⅱ 24306	1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。			△	○		◎		○
			子育て支援 24309	1 保育の専門性を背景とした保育士の保護者に対する相談、情報提供、行動見本の提示等(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した子育て支援について、支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。				○	△	◎		○
			教育相談 24308	1 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 2 幼児理解の方法を具体的に理解する。 3 園における教育相談の意義と理論を理解する。 4 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。 5 教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。				○	△	◎		○
			ピアノ基礎技能A 24310	1 ピアノを演奏するために必要な音楽理論や読譜、運指法などを理解する。 2 保育現場で求められるピアノの演奏技術を習得する。 3 自分の演奏レヴェルに合わせた伴奏を工夫する能力を身に付ける。 4 コードネームを用いた伴奏付けを学習し、メロディにコードを付けて演奏できる。			○			◎	△	○
			ピアノ基礎技能B 24311	1 ピアノを演奏するために必要な基礎的な技術を習得する。 2 その曲に適した強弱や曲想をつけ、音楽的な表現を工夫する。 3 ピアノ曲のレパートリーを増やし、豊かな音楽表現の能力を身に付ける。 4 コードネームを見て、メロディにふさわしい伴奏付けを即興的に実践する。			○			◎	△	○
			ピアノ基礎技能C 24312	1 保育の現場で子どもと音楽活動を行う際に必要となるピアノ演奏の技術を修得する。 2 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。 3 楽曲がもつ特徴を理解し、それを自分なりに解釈して表現するための技能を学習する。			○			◎	△	○
			レクリエーション演習 24313	1 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につける。 2 1対１、１対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につける。 3 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につける。 4 既存のアクティビティを、対象にあったアクティビティへとアレンジする力を身につける。 5 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につける。 6 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につける。	△	○				◎	◎	△
			野外活動演習 24314	1 自然の中で共同生活を体験し、自己の生活やよりよい人間関係のあり方を理解する。 2 自然体験活動の知識、技術や態度（心構え）を理解し、体験活動を指導することができる。 3 子どもの生活と人間形成における自然環境との相互交渉の重要性を理解する。 4 活動に伴う危険性を理解し、安全への意識を高め、安全な行動ができる。 5 自然に親しみ、自然への理解を深め、自然を大切にする行動ができる。	△					◎	○	△
		保育技能244	保育技能Ⅰ 24401	1 保育に関する総合的な学習を基盤として、実践能力を開発するため、豊かで多様な保育技能を修得する。 2 「手遊び」「スケッチブックシアター」について学習し、保育現場における実践的な活用方法を身につける。 3 保育技能とは、たんなる技能ではなく、保育活動の理念を実践的に具現化する技能であることを理解する。	○	○	○	△	○	◎	○	○
			保育技能Ⅱ 24402	1 保育に関する総合的な学習を基盤として、実践能力を開発するため、豊かで多様な保育技能を修得する。 2 「絵本」「紙芝居」「おりがみ」について学習し、保育現場における実践的な活用方法を身につける。 3 多様な保育技能を修得することにより、保育現場で子どもの成長・発達にとって意義深い環境構成能力を発揮できる実践力のある保育者、幼児教育者となることを目指す。	○	○	○	△	○	◎	○	○

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	総合演習科目 250	保育･教職実践演習(幼稚園) 25001	1 本学の学修によって学生が身につけた資質能力が、保育者、幼児教育者として最小限必要な資質能力として有機的に結合され形成されているかについて、本学が想定する保育者像や教員像、到達目標に照らして最終的に確認する。 2 将来、保育者、幼児教育者になる上で、自己にとって何が課題であるのか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。 3 自分についてのあるべき保育者像、幼児教育者像を確立する。	○		△		○		△	◎
	実習科目 260	保育実習指導Ⅰ 26001	1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。 5 実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題と目標を明確にする。			○		◎	○		△
		保育実習Ⅰ 26005	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の授業科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。			○		◎	○		△
		保育実習指導Ⅱ 26002	1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。 5 実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題と目標を明確にする。			○		◎	○		△
		保育実習Ⅱ 26006	1 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や利用児・者との関わりを通して、施設を利用する子ども等への理解を深める。 3 既習の授業科目の内容を踏まえ、利用児・者への支援及び保護者への支援について総合的に理解する。 4 支援計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 施設で働く保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。		○		◎	○		△	
		保育実習指導Ⅲ 26003	1 保育所における保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の授業科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			○	◎	◎	○		△
		保育実習Ⅲ 26007	1 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3 既習の授業科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5 実習の総仕上げとして責任実習を行い、保育の本格的な実践を体験し、学習する。 6 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 7 実習における自己の課題を明確化する。			○	◎	◎	○		△
		保育実習指導Ⅳ 26004	1 施設における保育実習の意義・目的を理解し、施設保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の授業科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題・認識を明らかにする。			○	◎	◎	○		△
		保育実習Ⅳ 26008	1 既習の授業科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深めるとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 4 実習における自己の課題を理解する。		○		◎	○		△	

科目区分		授業科目	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専門科目	実習科目	教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅰ 26009	1 幼稚園の現場実習に臨むための総合的な準備学習と、実習を終えての総括学習を行い、実習を円滑に行い、意義深いものとすることができるようにする。 2 実習日誌の作成、部分実習を行うための指導案作成と、それに基づく実践ができるようになる。 3 実習後の課題を明確にし、保育者に必要な知識や方法と技術をさらに深めていく。 4 責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学ぶ。			○	◎	◎	○		△
		教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅱ 26010	1 幼稚園の現場実習に臨むための総合的な準備学習と、実習を終えての総括学習を行い、実習を円滑に行い、意義深いものとすることができるようにする。 2 実習日誌の作成、部分実習、全日実習を行うための指導案作成と、それに基づく実践ができるようになる。 3 実習後の課題を明確にし、保育者に必要な知識や方法と技術をさらに深めていく。 4 責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学ぶ。 5 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について理解する。			○	◎	◎	○		△
		教育実習(幼稚園)Ⅰ 26011	1 幼稚園と幼稚園教育の基本を理解する。 2 観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を発展させる。 3 実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを理解する。 4 参加実習を行い、保育の方法と技術を実地に学ぶ。 5 家庭との連携や対応の仕方について知る。 6 幼稚園教諭の職務と職業倫理について理解する。 7 幼稚園教諭の使命を自覚し、求められる資質・能力について理解を深める。			○	◎	◎	○		△
		教育実習(幼稚園)Ⅱ 26012	1 幼稚園と幼稚園教育についての理解をさらに深める。 2 観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を深め、発展させる。 3 実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを、いっそう深く理解する。 4 参加実習などに取り組み、幼児教育の方法と技術を実地に深く学ぶ。 5 実習の総仕上げとして責任実習を行い、幼稚園教育の本格的な実践を体験し、学習する。 6 家庭や地域との連携を知り、理解を深める。 7 幼稚園教諭の職務と社会的使命について理解を深める。 8 教育実習（前半実習及び後半実習）の総括と評価を行い、今後の課題を明確にする。			○	◎	◎	○		△
	キャリア科目 270	保育キャリア形成演習Ⅰ 27001	1 キャリア形成と生涯学習について学び、生涯を通じた就業力を育てる。 2 公務員保育士を目指し、筆記試験対策を行い、公務員試験合格にむけた基礎知識を身につける。 3 保育士という職業について考え、面接試験にも通用する自己表現力を身につける。	○		○				◎	◎
		保育キャリア形成演習Ⅱ 27002	1 専門的職業活動に活かすための人生設計を計画し、自己実現へ繋げる。 2 人的環境である保育者としての役割や子どもに与える影響について考察を深める。 3 自己の特性を探り保育活動を計画し実施することで得意分野を知り、質の高い技術を修得する。	○		○				◎	◎

＜授業の位置づけや目標を理解して、短期大学の学修に取り組む＞

短期大学の学修を充実させ、実践力のある保育者へのみちすじを着実に歩んでいくためには、授業の位置づけや目標を理解して取り組むことが大切です。また、どのような力がどの程度身に付いたか振り返り、次のステップに進んでいく姿勢が求められます。そのために、この冊子の以下のページを活用してください。

◇ pp12～13 のカリキュラム・フローチャートは、学修の４つの段階の学修目標をどのような授業において学んでいくのか、その流れを示しています。それぞれの学修内容と学習成果との関係も表しています。

◇ pp14～15 のカリキュラム・ツリーは、授業科目の性格によるグループごとに、どのような授業が２年間・3 年間で配置され、それがどのような関係にあるかを表しています。すべての授業の位置づけを、確認するのに便利です。

◇ pp17～22 のカリキュラム・マップは、すべての授業科目の到達目標、各授業と学習成果との関係を表しています。目標を自覚して授業に取り組めるよう、活用していきましょう。

◇ pp30～33 のルーブリックは、実践力のある保育者に必要な力の到達度を自分自身で振り返り、次の目標を定めていくために使うことができます。フィールドごとに、評価観点１０の力について、レベル４～０の基準を示しています。みずいろで囲まれたレベル１は、卒業までに全員にクリアして欲しい力を示しています。また、ピンクで囲まれたレベル４は、極めてすばらしい達成水準を示しています。参考にすることで、具体的に必要な力を確認しながら短期大学生活を充実させていきましょう。

（２） 実習・ボランティア活動

入　学　前	カリキュラム・フローチャートの骨格となる４つの段階 ＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。 ＊長期履修生は３年間で４つの段階を学びます。				卒　業　後
プレカレッジ （入門）	基礎段階 *groundwork*	基本段階 *framework*	発展段階 *development*	統合段階 *integration*	卒業後 （保育者支援）
	実　践　力　の　あ　る　保　育　者　の　育　成				
	基　盤　を　形　成　す　る　時　期		保育力・指導力・支援力を育てる時期	学修のまとめと 保育の仕事をつなげる時期	
	前期　**保育現場体験** 保育の現場に触れる。子どもたちの園での姿を観察する。	11月 2月　**教育実習（幼稚園）Ⅰ** **保育実習Ⅰ** 観察・参加・部分実習を通じて、幼児教育・保育の基本を理解する。発達に即した保育者の関わり方を理解する。身につけた保育技術を実践する。	5月　**保育実習Ⅱ** 多様な対象者の理解と支援を実践的に学ぶ。 6月　**教育実習（幼稚園）Ⅱ** 保育の理論と技術の総合的な体験。それまでの実習での苦手の克服。	11月　**保育実習Ⅲ** **保育実習Ⅳ** 学修の集大成。保育者としての自己の課題の発見と理解。	

教育実習(幼稚園) Ⅰ到達目標

①幼稚園と幼稚園教育の基本を理解する。
②観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を発展させる。

保育実習Ⅰ到達目標

①保育所と保育所保育の基本を理解する。
②観察実習、子どものかかわりなどを通して、子どもの理解を深める。

保育実習Ⅱ到達目標

①施設において利用児（者）や職員と生活を共にすることにより、施設と施設保育の基本を理解する。

教育実習(幼稚園)Ⅱ到達目標

①幼稚園と幼稚園教育の基本についての理解をさらに深める。

保育実習Ⅲ到達目標

①保育所と保育所保育の基本についての理解をさらに深める。

保育実習Ⅳ到達目標

①施設において利用児（者）や職員と生活を共にすることにより施設と施設保育の基本を深く理解する。

③実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを理解する。 ④参加実習を行い、保育の方法と技術を実地に学ぶ。 ⑤家庭との連携や対応の仕方について知る。 ⑥幼稚園教諭の職務と職業倫理について理解する。 ⑦幼稚園教諭の使命を自覚し、求められる資質・能力について理解を深める。	③実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを理解する。 ④参加実習を行い、保育の方法や技術を実地に学ぶ。 ⑤家庭や地域との連携を学ぶ。 ⑥保育士の職務と職業倫理について理解する。 ⑦保育士の使命を自覚し、求められる資質・能力について理解を深める。	②観察や利用児（者）とのかかわりなどを通して、利用児（者）への理解を深める。 ③実習日誌や観察記録の作成方法、支援計画の内容などを理解する。 ④参加実習を行い、養護や発達支援を含む保育の方法や技術を実地に学ぶ。 ⑤家庭と地域の実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を進める。 ⑥施設保育士の職務と職業倫理について理解する。 ⑦保育士の使命を自覚し、求められる資質・能力について理解を深める。	②観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を深め、発展させる。 ③実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを、いっそう深く理解する。 ④参加実習などに取り組み、幼児教育の方法と技術を実地に深く学ぶ。 ⑤実習の総仕上げとして責任実習を行い、幼稚園教育の本格的な実践を体験し、学習する。 ⑥家庭や地域との連携を知り、理解を深める。 ⑦幼稚園教諭の職務と社会的使命について理解を深める。 ⑧教育実習Ⅰ、Ⅱの総括と評価を行い、今後の課題を明確にする。	②観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子どもの理解をさらに深める。 ③実習日誌の作成、指導計画の立案、観察記録の作成方法などの理解をさらに深める。 ④参加実習などを体験し、保育 の方法と技術を実施に学び、 身につけることができるようにする。 ⑤実習の総仕上げとして責任実習を行い、保育の本格的な 実践を体験し、学習する。 ⑥家庭や地域との連携を知り、 理解を深める。 ⑦保育者の職務や社会的使命について理解を深める。 ⑧保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱと保育実習Ⅲにおいて実践した保育実習の総括と評価を行い、今後の課題を明確にする。	②観察や利用児（者）とのかかわりなどを通して、利用児（者）への理解を深める。 ③実習日誌の作成、支援計画の立案、観察記録の作成の方法などを、いっそう深く理解する。 ④参加実習を行い、養護や発達支援を含む保育の方法や技術を実地に学び、その理解を深める。 ⑤家庭と地域の実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を進める。 ⑥保育者の職務や社会的使命について理解を深める。 ⑦保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱと保育実習Ⅳにおいて実践した保育実習の総括と評価を行い、今後の　課題を明確にする。

ボランティア活動

保育所、幼稚園、認定こども園、施設でのボランティア活動は、実習を円滑に進めていくことにつながります。また、実習の中で発見した課題を達成していくために、ボランティアとして園、施設などで活動させていただくことは、実践力のある保育者に育っていくうえでもとても役立ちます。

（3） キャンパスライフ

入　学　前	カリキュラム・フローチャートの骨格となる４つの段階 ＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。 ＊長期履修生は３年間で４つの段階を学びます。				卒　業　後
プレカレッジ （入門）	基礎段階 *groundwork*	基本段階 *framework*	発展段階 *development*	統合段階 *integration*	卒業後 （保育者支援）
	実　践　力　の　あ　る　保　育　者　の　育　成				
	基　盤　を　形　成　す　る　時　期		保育力・指導力・支援力を育てる時期	学修のまとめと保育の仕事をつなげる時期	
課 題	○短期大学生活の理解 ○友人や先輩、教員と知り合い、親睦を図る ○学修を中心とした生活習慣を整える ○学友会やクラブ活動に参加する	○学修を中心とした自律的な生活習慣の確立 ○友人や先輩、教員、実習先などの学外の方とのコミュニケーションを学び、課題を発見する ○行事に協力して取り組む ○行事への取り組みを通して、企画、立案、実施、活動評価を行う ○上級生より活動の引き継ぎを受け、責任感を養う	○学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、自律的な生活習慣の確立 ○短期大学の２年生としての自覚を持ち、卒業・就職までの流れをつかむ ○新入生を迎え、学友会、クラブ活動などにおいて、リーダーシップを発揮する ○自身と異なる他者を受け入れることを学ぶ	○行事への取り組みを通して、全体を把握した上で、企画、立案、実施、活動評価を行う。その中で、１年生の活動を支援、指導する ○自立に向けた準備に取り組む ○学生生活全体を振り返り、卒業後の課題とそれへの取り組みを自覚する	

主な行事とその位置づけ	4月 **入学式・オリエンテーション・新入生研修・新入生歓迎会・クラブ手続き・各委員会決め** オリエンテーションを通して短期大学生活を理解し、学修を中心とした生活習慣を整える意識を持つ。新入生研修を通じて、学生・教員との親睦を図る。学友会やクラブ活動に参加し、東萌祭への取り組みを開始する。 6月 **学友会選挙・学生総会** 学友会選挙や学生総会に参加する。上級生のリーダーシップのもとで、学友会活動を企画立案し、実施する。	10月 **東萌祭** ゼミやクラブなどの団体に参加する中で、活動の企画立案や実施を行い、協力して取り組むことを体験する。学友会、実行委員会での活動を通して組織的な行事への取り組みを体験し、その振り返りをもとに上級生からの活動の引き継ぎを受ける。	4月 **新入生研修・新入生歓迎会での新入生への活動紹介及び歓迎(学友会・クラブ)・オリエンテーション・クラブ手続き・各委員会決め** 新入生研修や新入生歓迎会で新入生への学友会やクラブの活動紹介を行い、リーダーシップを発揮する。オリエンテーションにおいて卒業・就職までの学修の流れを把握し、自律的な生活が送れるようにする。 6月 **学友会選挙・学生総会** 下級生を先導する立場で学友会選挙や学生総会を企画立案し、実施する。学友会の活動において中心的な役割を担う。	10月 **東萌祭** ゼミやクラブなどの団体による参加の中で、活動の企画立案・実施を行い、協力して取り組むことを体験する。学友会、実行委員会での活動を通して、下級生への活動の引き継ぎを行う。 3月 **卒業式と卒業記念行事** 卒業記念行事委員会として、卒業に向けて活動する。卒業式などを通して、短期大学生活を振り返り、卒業後の目標を自覚する。

（4） キャリア形成

入　学　前	カリキュラム・フローチャートの骨格となる４つの段階 ＊２年制コースは２年間で４つの段階を学びます。 ＊長期履修生は３年間で４つの段階を学びます。				卒　業　後
プレカレッジ （入門）	**基礎段階** *groundwork*	**基本段階** *framework*	**発展段階** *development*	**統合段階** *integration*	卒業後 （保育者支援）
	実　践　力　の　あ　る　保　育　者　の　育　成				
	基　盤　を　形　成　す　る　時　期		保育力・指導力・支援力を育てる時期	学修のまとめと保育の仕事をつなげる時期	
課題 キャリア・プランニング	○自己理解 ○働くことの意義を理解し、ライフデザインを考える ○卒業後の進路に向けて、短大生活の見通しを立てる	○進路や職業に関する情報を収集する ○保育の仕事について理解をすすめる	○自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいかの目標を見い出す	○学修のまとめを行い、保育の仕事とつなげていく ○卒業後のキャリア形成について見通しをもつ	
課題 就職活動	○就職についての基礎的な知識を身につける	○就職活動に必要なスキルを身につける ○公務員志望者は試験対策を行う	○希望業種および就職志望先を決定する ○就職試験の準備を行い、受験する ○公務員試験の受験	○就職先の決定 ○就職先へ必要書類を提出する ○就職前研修等への参加	
キャリアイベント	４月　オリエンテーション ７月　就活スタートアップ講座	10 月　第１回就職試験対策講座（自己 PR） 12 月　就職講演会 １月　第２回就職試験対策講座（履歴書・面接） ３月　就職内定報告会	４月　オリエンテーション ４～９月　個別就職面談 ７月　就職直前講演会 就職試験　⇒　内定へ	10～12 月　個別就職面談 １～２月　リスタート（個別面接） ３月　就職内定報告会	
各イベ	**オリエンテーション** ２年間の流れと各時期の課題の理解 **就活スタートアップ講座** 保育の仕事とライフデザインを考えよう！ ①職業を持つということ ②自己のライフデザイン、キャリ	**就職講演会**～保育の仕事を知ろう！ 保育所、幼稚園、認定こども園、施設の園長、主任による講演会	**オリエンテーション** １年次の到達状況の確認 キャリア支援担当教員の発表 内定までの流れ、就職活動内容 学内の事務手続き書類について 就職登録あっせん票の記入	**個別就職面談** 就職指導の継続 内定者への個別指導 内定手続き **リスタート** 未内定者への就職指導（個別指導）	

ント内容	アデザインの設計と見通し ③卒業後の進路について ④業種の選択肢と業務内容の比較 ⑤職種の選択および勤務形態について ⑥公務員（保育士）について ⑦ボランティアの手続きについて **ボランティア参加の推奨** 幼稚園・保育所・認定こども園・施設等	**第１回就職試験対策講座（自己PR）** 自己PR講座 **第２回就職試験対策講座（履歴書・面接）** ①履歴書の書き方 ②就職試験、就職活動における言葉遣いと練習 ③面接試験の内容、応答、立ち居ふるまいの練習 **就職内定報告会** ①２年生採用試験合格者の体験談 ②これから受験する学生へのアドバイス	**公務員（保育士）模擬試験** 公務員を目指す学生対象 学修の到達度と課題の発見 **就職直前講演会** 保育現場に就職した卒業生による講演会。採用試験でのポイントを知り、面接の練習を行う。	**就職内定報告会** ①就職内定までの活動の振り返り ②これから受験する学生へのアドバイス
キャリア・サポート体制	**ゼミ担当面談** キャリア支援課 学務課 実習・キャリアセンター	**ゼミ担当面談** 保育キャリア形成演習Ⅰにおける公務員試験対策 キャリア支援課 学務課 実習・キャリアセンター	**キャリア支援担当教員による面談** 希望業種および就職先決定サポート キャリア支援課 専門領域担当教員 学務課 実習・キャリアセンター	**キャリア支援担当教員による面談** 就職先決定サポートの継続 就職内定者のフォロー、 内定手続き 専門領域担当教員　キャリア支援課 学務課　実習・キャリアセンター
キャリア関連授業科目	**基礎ゼミ** ①実務文書作成、接遇と応対など、職業生活に必要な汎用性のある知識と技能を学び、身につける。 ②保育、幼児教育などの専門的職業に必要な知識と技能、職業的意識や心　構えを学ぶ。 ③社会的・職業的自立に向けて、人生の見通しを構想できるようになる。	**保育キャリア形成演習Ⅰ** **基本ゼミ** ①キャリア形成と生涯学習について学び、生涯を通じた就業力を育てる。 ②公務員保育士を目指し、筆記試験対策を行い、公務員試験合格のための専門知識を身につける。 ③自己を振り返り、面接試験に通用する自己表現力を身につける。	**保育キャリア形成演習Ⅱ** **発展ゼミ** ①専門的職業活動に生かすための人生設計を計画し、自己実現へ繋げる。 ②人的環境である保育者としての役割や子どもに与える影響について考察を深める。 ③自己の特性を探り保育活動を計画し、実施することで得意分野を知り、質の高い技術を修得する。	**保育・教職実践演習（幼稚園）** **統合ゼミ** ①本学の学修によって学生が身につけた資質能力が、保育者、幼児教育者として最低限必要な資質能力として有機的に結合され形成されているかについて、本学が想定する保育者像や教員像、到達目標に照らして最終的に確認する。 ②将来、保育者、幼児教育者になる上で、自己にとって何が課題であるか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。 ③自分についての、あるべき保育者像、幼児教育者像を確立する。

8　実践力のある保育者に必要な力の到達度評価のためのルーブリック

（フィールド１）　授業（学修）

実践力のある保育者に必要な学力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度 ＼ 評価観点 10の力	レベル4 AA 100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	レベル3 A 85点(89～80点) 優れた達成水準である。	レベル2 B 75点(79～70点) 良好な達成水準である。	レベル1 C 65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	レベル0 D 50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	該当科目
評価観点1 子どもと向き合うおとなとしての基礎力	評価基準1－4 短期大学生としての学問的な”学び”の意味を理解し、主体的な学習態度が身についている。論知的な文章を作成することができ、情報機器を適切に操作することができる。	評価基準1－3 短期大学生としての主体的な学習態度を身につけている。文章表現が優れ、必要な情報機器操作もマスターしている。	評価基準1－2 短期大学生として、主体的に学習する姿勢が必要であることを理解している。文章作成、情報機器操作の基本を身につけている。	評価基準1－1 短期大学生として主体的に学習する姿勢が必要であることに気づいている。文章作成、情報機器操作の基本の修得にさらに努力が必要である。	評価基準1－0 短期大学生に必要な学習態度についての理解が不十分である。	基礎ゼミ、基本ゼミ、日本語表現、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、情報機器演習Ⅰ・Ⅱ、体育理論、体育実技
評価観点2 子どもと向き合うおとなとしての教養	評価基準2－4 社会的な出来事や人間的な営みについて関心が高く、新聞や本などと日常的に接することができる。教養を身につけていくことの意味を十分に理解している。	評価基準2－3 社会的出来事や人間的な営みについて、関心を持っている。新聞や本を読むことが習慣となっており、教養を身につける意味を理解している。	評価基準2－2 社会的出来事や人間的な営みに関心を持とうとしている。新聞や本を読むことを習慣づけようとしている。	評価基準2－1 社会人としての教養が必要であることに気づいている。社会的な出来事への関心を高める努力が必要である。	評価基準2－0 社会人として教養が必要であることについての理解が不十分である。	発展ゼミ、統合ゼミ、文学入門、心理学、日本国憲法、美術鑑賞、地球環境入門
評価観点3 子どもの生活とあそびを充実させる力	評価基準3－4 音楽、造形、言葉、身体的表現活動の技術が高く、それを用いて子どもの生活とあそびを充実させるために構成することができる。	評価基準3－3 音楽、造形、言葉、身体的表現技術のうち、得意な領域を持ち、他領域の技術も用いることができる。	評価基準3－2 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることを理解している。得意な表現技術の領域を持ち、他領域の技術ものばそうとしている。	評価基準3－1 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることについては、基本的に理解できている。表現技術の習得にさらに努力が必要である。	評価基準3－0 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることについての理解が不十分である。	幼児と音楽表現Ⅰ、幼児と音楽表現Ⅱ、幼児と音楽表現Ⅲ、幼児と音楽表現Ⅳ、幼児と造形表現Ⅰ、幼児と造形表現Ⅱ、幼児と造形表現Ⅲ、幼児と造形表現Ⅳ、幼児と健康Ⅰ、幼児と健康Ⅱ、幼児と言葉、幼児と環境
評価観点4 保育・教育・福祉を理解する力	評価基準4－4 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解ができる。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割と必要な資質について理解ができる。	評価基準4－3 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解ができる。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割と必要な資質について、基本的な理解ができる。	評価基準4－2 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解が得られるように努力している。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割と必要な資質についての理解の必要性を認識している。	評価基準4－1 保育、教育、福祉の本質と現状の理解の必要性について認識している。	評価基準4－0 保育、教育、福祉の本質と現状の理解の必要性について、認識が不十分である。	教職概論（保育者・教師論）、教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、社会福祉、子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ
評価観点5 子ども・保護者を理解する力	評価基準5－4 子どもの心身の健康や発達について理解できる。子どもにとっての家庭の役割や保護者への支援に必要な視点を理解できる。	評価基準5－3 子どもの心身の健康や発達について理解できる。子どもにとって家庭の役割、保護者への支援について理解しようと努力している。	評価基準5－2 子どもの心身の健康や発達について、基本的な理論を理解している。	評価基準5－1 子ども・保護者についての理解の必要性について認識している。心身の健康、発達の理解にはさらに努力が必要である。	評価基準5－0 子ども・保護者についての理解の必要性の認識が不十分である。	こども文化Ⅰ、こども文化Ⅱ、教育心理学、子ども家庭支援の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、子どもの健康と安全
評価観点6 保育の内容・指導を組み立てる力	評価基準6－4 子どもの発達に応じた活動のねらい、目標を設定し、長期、短期の保育の内容、指導を組み立てることができる。	評価基準6－3 子どもの発達に応じた活動のねらい、目標を設定できる。短期の保育の内容、指導の構成が考えられる。	評価基準6－2 子ども、利用者の姿をイメージし、その発達や状態にあわせたねらい、目標を設定できる。活動ごとの、保育の内容、指導を組み立てる上での配慮事項を検討できる。	評価基準6－1 子ども、利用者の姿をイメージして園、施設での指導を考えようとしているが、ねらい、目標の設定ができるためには努力が必要である。	評価基準6－0 子ども・利用者の姿をイメージすることが不十分で、園、施設での指導を考えることができない。	教育課程論、保育内容総論、保育内容（健康）指導法、保育内容（人間関係）指導法、保育内容（環境）指導法、保育内容（言葉）指導法、保育内容（音楽表現）指導法、保育内容（造形表現）指導法、保育内容（身体表現）指導法、保育内容（総合表現）指導法
評価観点7 いろいろな子ども・保護者とかかわる力	評価基準7－4 乳児保育、障碍児保育、社会的養護についての基本をおさえ、対象に応じたかかわりが必要なことを理解できる。レクリエーションやキャンプの活動、支援や相談の方法について、得意な分野を持っている。	評価基準7－3 乳児保育、障害児保育、社会的養護についての基本をおさえ、対象に応じたかかわりが必要なことを理解できる。支援方法を身につけようと努力している。	評価基準7－2 乳児保育、障害児保育、社会的養護の基本を押さえることの必要性を認識している。	評価基準7－1 対象に応じたかかわり方が必要であることについては、理解できている。乳児、障害児、社会的養護を必要とする児童、保護者への対応についての理解にさらに努力が必要である。	評価基準7－0 対象に応じたかかわり方が必要であることの理解が不十分である。	幼児教育方法論、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障害児保育Ⅰ、障害児保育Ⅱ、社会的養護Ⅱ、子育て支援、教育相談、レクリエーション演習、野外活動演習、特別支援教育、子ども理解の理論と方法
評価観点8 保育の技能	評価基準8－4 保育技能の習得により、保育、幼児教育の多彩で変化に富んだ実践能力を発揮できる。	評価基準8－3 保育の技能の得意な領域を持ち、その他の領域についても技能の向上に努めている。実践場面での活用について工夫している。	評価基準8－2 保育の技能の基本を身につけている。得意な領域をさらに伸ばそうと努めている。実践場面での活用には、一層の努力が必要である。	評価基準8－1 保育、幼児教育の場で、保育技能が必要であることを理解し、技能への興味・関心を持っているが、技能の基本を身につけるためには、さらに努力が必要である。	評価基準8－0 保育、幼児教育の場における保育技能の必要性は知っているが、興味、関心を持って習得していない。	保育技能Ⅰ、保育技能Ⅱ、ピアノ基礎技能A、ピアノ基礎技能B、ピアノ基礎技能C
評価観点9 現場を体験し、学修と実践を結びつける力	評価基準9－4 各実習のねらいと目標を十分に理解し、実習の成果をあげることができる。日頃の学修と実習における実践を結びつけて生かすことができ、その中から自己の課題を発見できる。	評価基準9－3 各実習のねらいと目標を理解し、実習の成果をあげることができる。日頃の学修と実習における実践を結びつけて生かそうとしている。	評価基準9－2 各実習のねらいと目標を理解し、実習に取り組んでいる。実習での体験から学んだことと、日頃からの学修を結びつけるには、さらに努力が必要である。	評価基準9－1 各実習のねらいと目標を理解しようと努力している。実習に取り組む姿勢、注意点は認識している。	評価基準9－0 現場体験の必要性は知っているが、各実習のねらいと目標を理解していない。	基礎ゼミ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅲ、保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅳ、保育実習Ⅳ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅰ、教育実習（幼稚園）Ⅰ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅱ、教育実習（幼稚園）Ⅱ、保育・教職実践演習（幼稚園）
評価観点10 キャリア・就職を見通し、自己研鑽を続ける力	評価基準10－4 将来の目標、就労後の理想とする保育者像を描くことができ、自己研鑽を続けることができる。	評価基準10－3 将来の目標、就職後の理想とする保育者像を描いている。そのために、自己研鑽が必要であることを理解している。	評価基準10－2 将来の目標、就労後の理想とする保育者像を描こうと努力している。そのための自己の課題を明確にするには、さらに努力が必要である。	評価基準10－1 将来の目標を見出そうと努力しており、人生設計の必要性は認識している。	評価基準10－0 将来の目標があいまいで、人生設計が困難である。	基本ゼミ、発展ゼミ、統合ゼミ、保育キャリア形成演習Ⅰ、保育キャリア形成演習Ⅱ

（フィールド２）　実習・ボランティア活動

実践力のある保育者に必要な保育実践力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度 ／ 評価観点 10の力	レベル4 AA 100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	レベル3 A 85点(89～80点) 優れた達成水準である。	レベル2 B 75点(79～70点) 良好な達成水準である。	レベル1 C 65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	レベル0 D 50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	該当科目など
評価観点1 園、施設の役割と機能、生活と業務の流れを理解する力	評価基準1－4 法令に基づき、園、施設の役割を十分理解するとともに、地域社会と保護者から求められる役割の中で、園、施設の機能を理解し、長期、短期の業務の流れを理解できる。	評価基準1－3 園、施設の役割と機能を理解している。生活と業務の一日の流れ、一週間の流れを理解している。	評価基準1－2 園、施設の役割と機能を理解しようと努力している。生活と業務の一日の流れ、一週間の流れを理解できる。	評価基準1－1 園、施設の役割と機能の理解が必要であることは認識しているが、十分な理解には至っていない。生活と業務の一日の流れを理解しようと努力している。	評価基準1－0 園、施設の役割と機能について、不正確な理解がみられる。生活と業務の流れの理解が不十分である。	基礎ゼミ 基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅰ 教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅱ 保育実習Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習Ⅳ 教育実習(幼稚園)Ⅰ 教育実習(幼稚園)Ⅱ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅱ 保育内容総論 保育内容(健康)指導法 保育内容(人間関係)指導法 保育内容(環境)指導法 保育内容(言葉)指導法 保育内容(音楽表現)指導法 保育内容(造形表現)指導法 保育内容(身体表現)指導法 保育内容(総合表現)指導法 ボランティア活動 実習ガイドブックの活用 自己実現ノート(学修ポートフォリオ)の活用 その他
評価観点2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割、チームワーク、職業倫理を理解する力	評価基準2－4 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟知し、保育者の役割を十分理解している。チームワーク、職業倫理について高い意識を持っている。	評価基準2－3 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育者の役割を理解している。チームワーク、職業倫理についての意識を持っている。	評価基準2－2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を理解している。チームワーク、職業倫理を理解しているので、行動できるようさらに意識を高める努力が必要である。	評価基準2－1 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を理解しようと努力している。チームワーク、職業倫理の必要性は認識しているので、十分な理解に向けて、さらに努力が必要である。	評価基準2－0 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を十分理解していない。チームワーク、職業倫理について理解が不十分である。	
評価観点3 保育計画、指導計画、指導案を立案する力	評価基準3－4 ねらい、目標を的確に設定し、長期、短期の計画を作成することができる。子ども、利用者の姿をイメージし、活動の展開を工夫した指導案を立案することができる。	評価基準3－3 ねらい、目標を設定し、短期の計画を作成することができる。子ども、利用者の姿をイメージし、活動の展開を工夫した指導案を立案できる。	評価基準3－2 子ども、利用者の姿をイメージし、その発達や状態に合わせたねらい、目標を設定できる。活動ごとの保育の内容、指導を組み立てる上の配慮事項を検討できる。	評価基準3－1 子ども、利用者の姿をイメージして園、施設の活動を考えようとしているが、ねらいと目標を設定した立案には、さらに努力が必要である。	評価基準3－0 子ども、利用者の姿をイメージすることが不十分で、保育計画、指導計画、指導案を立案できない。	
評価観点4 保育の方法と技能、支援の技術を効果的に実践に適用する力	評価基準4－4 保育の方法と技能、支援の技術のレパートリーが広く、常に質を高める努力を続けている。場面に応じて、組み合わせて実践することで、柔軟で効果的な活動を工夫できる。	評価基準4－3 保育の方法と技能、支援の技術の中で、得意な領域を持ち、その他の領域についても向上に努めている。実践場面から学ぶことができる。	評価基準4－2 保育の方法と技能、支援の技術の基本を身につけている。実践場面での活用には、一層努力が必要である。	評価基準4－1 保育の方法と技能、支援の技術が必要であることを理解し、興味・関心を持って取り組んでいるが、技能の基本を身につけるには、さらに努力が必要である。	評価基準4－0 保育の方法と技能、支援の技術の習得が不十分である。	
評価観点5 子どもや利用者(個人及び集団)に適切に関わることのできる力	評価基準5－4 一人ひとりの子どもや利用者に、発達や個性を踏まえた適切なかかわりができる。集団への指導や働きかけについて理解し、状況に応じた対応ができる。	評価基準5－3 一人ひとりの子どもや利用者に発達や個性を踏まえかかわろうと努めている。集団への状況に応じた指導や働きかけ方を工夫している。	評価基準5－2 一人ひとりの子どもや利用者に、発達や個性を踏まえたかかわりが必要であることが理解できる。集団への指導や働きかけ方を工夫している。	評価基準5－1 挨拶、言葉遣い、他者の話を聞く姿勢などの基本的な態度が身についている。一人ひとりの子どもや利用者の発達や個性を踏まえてかかわるには、さらに努力が必要である。	評価基準5－0 挨拶、言葉遣い、他者の話を聞く姿勢などの基本的な態度が不十分である。	
評価観点6 実習日誌、観察記録、実践記録を作成し、記録に基づく省察、評価を行う力	評価基準6－4 観察、実践の記録を的確に作成することができる。記録に基づき、活動について考察することができ、次の目標の設定に結びつけることができる。	評価基準6－3 観察、実践の記録を作成することができ、これに基づいて活動について考察することができる。	評価基準6－2 観察、活動を理解し、実習日誌、観察記録、実践記録を作成できる。記録に基づき省察、評価を行うことを理解している。	評価基準6－1 観察、活動の理解を行い、実習日誌、観察記録、実践記録を作成しようとするが、文章に表現するためにはさらに努力が必要である。	評価基準6－0 観察、活動の理解が不十分で、実習日誌、観察記録、実践記録への記録が困難である。漢字の使用に間違いが多く、正しい文章表現ができない。	
評価観点7 園、施設において、協調、協働して役割を果たすことができる力	評価基準7－4 他者を理解し受容することができ、協調性に富んでいる。園、施設において協働した取り組みを行うことの意義を十分に理解し、自己の役割を果たすことができる。	評価基準7－3 他者を理解し受容することができ、協調性がある。協働した取り組みを行うことの意義を理解し、自己の役割を果たそうと努力している。	評価基準7－2 他者を理解し受容することができる。園、施設において、協調して役割を果たすことに努めている。	評価基準7－1 他者を理解し、受容しようとする姿勢はあるが、園、施設において協調して役割を果たすには、さらに努力が必要である。	評価基準7－0 他者を理解し、受容しようとする姿勢が不十分であり、園、施設において協調して役割を果たす意識が十分でない。	
評価観点8 家庭や地域との連携や対応の仕方を理解する力	評価基準8－4 家庭や地域との連携の必要性について認識し、多様な対応の仕方を理解している。	評価基準8－3 家庭や地域との連携の必要性について認識し、対応の仕方の基本を理解している。	評価基準8－2 家庭や地域との連携の必要性について認識し、対応の仕方の基本を理解しようと努めている。	評価基準8－1 家庭や地域との連携が必要であることについて、認識している。	評価基準8－0 家庭や地域との連携についての意識が不十分である。	
評価観点9 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命、求められる資質・能力を理解し、自己の課題を発見する力	評価基準9－4 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命を自己のものとして理解し、求められる資質・能力に対して自己の課題を発見し、研鑽を続けていくことができる。	評価基準9－3 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命を理解し、求められる資質・能力に対して、自己の課題を発見している。	評価基準9－2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭に求められる職務内容と役割を理解し、自己の課題を発見しようと努力している。	評価基準9－1 幼稚園教諭、保育士、保育教諭に求められる資質・能力を理解しようと努力しているが、自己の課題と結びつけて考えるには、さらに努力が必要である。	評価基準9－0 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命、求められる資質・能力の理解が不十分で、自己の課題を発見しようとしていない。	
評価観点10 知識、技能を統合的に活用し、問題を解決する力	評価基準10－4 問題に対し、身につけた知識、技能を、場面に即して統合的に活用して取り組み解決できる。	評価基準10－3 実践場面で必要な知識技能を身につけている。問題に即して知識技能を統合して取り組もうと努めている。	評価基準10－2 実践場面で必要な知識技術の基本を身につけている。問題を解決するために、身につけた知識・技能を活用するには、さらに努力が必要である。	評価基準10－1 実践場面で必要な知識、技能を身につけることついて意欲を示しているが、実際に習得するにはさらに努力が必要である。	評価基準10－0 必要な知識、技能は認識しているが、実践場面で活用できない。	

（フィールド３）　キャンパスライフ

実践力のある保育者に必要な人間的資質能力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度 / 評価観点 10の力	レベル4 AA 100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	レベル3 A 85点(89～80点) 優れた達成水準である。	レベル2 B 75点(79～70点) 良好な達成水準である。	レベル1 C 65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	レベル0 D 50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	該当する活動
評価観点1 主体性、自主性を持って生活できる自己管理能力	評価基準1－4 自律的な生活習慣が確立し、主体的、自主的に計画性を持って自己の生活を管理することができる。生活意欲が非常に高い。	評価基準1－3 自律的な生活習慣が確立し、自己の生活を主体的、自主的に組み立てようと努力している。	評価基準1－2 スケジュールを管理し、計画的に生活することができる。	評価基準1－1 一日の生活の管理は、自身で行うことができる。スケジュールを管理し、計画的に生活するには、さらに努力が必要である。	評価基準1－0 計画的で自立した生活の必要性は知っているが、生活の自己管理ができない。	東萌祭、クラブ活動、学友会活動、各実習における活動、学修への取り組み 自己実現ノート（学修ポートフォリオ）の活用
評価観点2 正しいマナー、言葉遣いを用いる力	評価基準2－4 場の状況、接する相手によって正しいマナー、言葉遣い、敬語を用いることができる。日常的な挨拶、環境整備にも心配りがある。	評価基準2－3 マナー、敬語の使い方、正しい言葉遣いの基本を身につけている。	評価基準2－2 敬語の使い方について理解しようと努め、言葉遣いに注意している。正しいマナーを身につけるには、さらに努力を必要とする。	評価基準2－1 日常的な挨拶ができ、言葉遣いにも自ら注意をしている。敬語の使い方について、十分理解しておらず、さらに努力が必要である。	評価基準2－0 正しいマナー、言葉遣いを用いることの必要性は知っているが、その内容の理解には至らない。	
評価観点3 情報を収集し、的確に発信する力	評価基準3－4 適切に情報収集を行い、文書作成、プレゼンテーションにより、的確に発信することができる。対象、内容により、発信方法を選択し工夫することができる。	評価基準3－3 適切に情報を収集し、文書作成、プレゼンテーションにより的確に発信することができる。	評価基準3－2 適切に情報を収集している。文書作成、プレゼンテーションにより、的確に発信できるように努力している。	評価基準3－1 適切な情報収集の必要性は認識しているが、情報を正しく取捨選択するところまで至っていない。プレゼンテーション、コメントの基本的な形式は理解している。	評価基準3－0 信頼できる情報源からの正しい情報が得られず、発信の方法がわからない。	
評価観点4 社会的責任を自覚し、行動する力	評価基準4－4 社会的な常識を有し、市民としての自覚、社会的責任の意識に基づき行動することができる。	評価基準4－3 社会的常識について、基本的に理解し、社会的責任を自覚して行動することができる。	評価基準4－2 社会的常識について基本的に理解している。社会的責任について理解し、それに基づいて行動しようとしている。	評価基準4－1 社会的常識を身につける必要性を認識し、努力している。社会的責任の自覚について、さらに努力が必要である。	評価基準4－0 社会的常識に欠け、社会的責任の意識が不十分である。	
評価観点5 自ら課題を発見し、合理的に取り組める創造力	評価基準5－4 現状を的確に分析し、課題を発見し、豊かな発想力を持って創造的に取り組むことができる。	評価基準5－3 現状の分析に基づき、自ら課題を発見し、創造的に取り組むことができる。	評価基準5－2 現状を把握し、そこから課題を発見し、取り組むことができる。	評価基準5－1 現状を把握し、そこから課題を発見することの必要性は理解しているが、実行するためにはさらに努力が必要である。	評価基準5－0 発想力が不十分で、課題の発見が困難である。	
評価観点6 他者を受容し、協調性を持って行動する共生力	評価基準6－4 他者を理解し、コミュニケーション能力を発揮して他者を受容することにより、文化、個性の異なる他者とも共生することができる。	評価基準6－3 他者を理解し受容して、協調性を持って行動することができる。	評価基準6－2 他者を理解し受容して、協調性を持って行動しようと努力している。	評価基準6－1 他者を理解し、受容することの必要性を認識し、協調性を持って行動しようという意識を持っている。	評価基準6－0 他者を理解し受容する力が不十分であり、コミュニケーション能力に偏りがある。	
評価観点7 チームワーク力	評価基準7－4 場面に応じた適切なリーダーシップ、フォロワーシップを発揮して、チームワークを形成することに貢献できる。	評価基準7－3 場面に応じて、適切なリーダーシップ、フォロワーシップを発揮できるチームワークの形成に貢献しようと努力している。	評価基準7－2 チームワークを形成する上で、自分自身の得意な分野、役割、苦手な分野、役割を理解している。	評価基準7－1 チームワークを形成する上での自分自身の特異な分野、役割、苦手な分野、役割に気づこうとしている。	評価基準7－0 リーダーシップ、フォロワーシップともに不十分であり、チームワーク力に困難がある。	
評価観点8 困難な状況に落ち着いて対応できる力	評価基準8－4 困難な状況にも感情の安定性を保ち、忍耐力を持って状況に冷静に対応することで、失敗や挫折から立ち直り、自己の成長の糧とできる。	評価基準8－3 困難な状況にも、落ち着いて忍耐力を持って対応できる。失敗や挫折を自己の成長の糧としようと努力している。	評価基準8－2 困難な出来事が発生した時に、すぐにあきらめず、落ち着いて行動できる。	評価基準8－1 困難な出来事が発生した時に、すぐにあきらめずに落ち着いて行動しようとしているが、実行できないことも多く、さらに努力が必要である。	評価基準8－0 忍耐力が不十分で、状況に落ち着いて対応できず、失敗から立ち直ることが困難である。	
評価観点9 倫理観を持って行動する力	評価基準9－4 自己の中に倫理的行動基準が形成され、公平、誠実な態度で行動することができる。	評価基準9－3 自己の中に倫理的行動の基準を持とうとしている。公平、誠実な態度で行動しようとしている。	評価基準9－2 倫理的な行動基準を持つことの意義を理解している。公平、誠実な態度で行動しようとしている。	評価基準9－1 公平、誠実な行動とそうでない行動との区別ができ、自らは公平、誠実であろうという意識を持っている。	評価基準9－0 倫理観への意識が不十分で、公平、誠実な態度で行動することが難しい。	
評価観点10 自己省察にもとづき、成長しつづける力	評価基準10－4 目標を設定し、自己の体験について自己省察、自己評価を行い改善していくスタイルが確立している。高い自己啓発力、自己研鑽力を有している。	評価基準10－3 自己の体験について、自己省察し自己評価し改善していくことができる。	評価基準10－2 自己の体験について、自己省察、自己評価し、改善点を発見しようとしている。	評価基準10－1 体験したことについて、振り返って考えようという意識を持っているが、改善点の発見までには至らない。	評価基準10－0 自己の体験について、省察、自己評価に基づいて実践する意識が乏しい。	

（フィールド４）　キャリア・プランニング、就職活動

実践力のある保育者に必要なキャリア形成力、就職力の到達度評価のためのルーブリック

領域	評価尺度 / 評価観点 10のカ	レベル4 AA 100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	レベル3 A 85点(89～80点) 優れた達成水準である。	レベル2 B 75点(79～70点) 良好な達成水準である。	レベル1 C 65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	レベル0 D 50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	該当科目、就職講座、就職準備活動など
キャリア・プランニング	評価観点1 客観的な視点から自己分析を行う力	評価基準1－4 自分自身の強み、弱みを客観的に把握し、強みを伸ばす方策、弱みを補う方策への見通しを持って自己分析できる。	評価基準1－3 自分自身の強み、弱みを客観的に把握することができる。強みを伸ばす方策、弱みを補う方策を検討することができる。	評価基準1－2 自分自身の強み、弱みを客観的に把握することができる。	評価基準1－1 客観的に自己理解しようという意識はあるが、不十分でありさらに一層の努力が必要である。強み、弱みを把握しようと努めている。	評価基準1－0 自己理解が主観的で偏っており、強み、弱みをバランスよく把握することができない。	基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育キャリア形成演習Ⅰ 保育キャリア形成演習Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園) オリエンテーション(1年、2年) 就活スタートアップ講座 就職講演会～保育の仕事を知ろう！ 自己実現ノート(学修ポートフォリオ)
	評価観点2 学ぶこと、働くことの意義や人生にとっての役割を理解する力	評価基準2－4 学ぶこと、働くことの意義を十分に理解し、自分自身の生きがいと結び付けて捉えることができる。	評価基準2－3 学ぶこと、働くことの意義を理解し、自分自身の生きがいと結び付けて捉えようとしている。	評価基準2－2 学ぶこと、働くことの意義を理解している。自分自身の生きがいを考えようとしているが、学ぶこと、働くこととのつながりを明らかにするにはさらに努力が必要である。	評価基準2－1 学ぶこと、働くことの意義を理解しようと努めているが、自分自身の生きがいとのつながりが明確でない。	評価基準2－0 学ぶこと、働くことの意義が十分理解されておらず、自分の人生とのつながりに気づいていない。	
	評価観点3 職業生活に関する人生設計力を持ち、キャリアビジョンを描く力	評価基準3－4 自分自身の人生設計の中に、職業生活を位置付けてキャリアビジョンを描くことができる。	評価基準3－3 自分自身の人生の中に、職業生活を位置付けて設計することができる。	評価基準3－2 自分自身の人生の中に、職業生活を位置付けて設計しようとしている。	評価基準3－1 卒業後の職業生活についてビジョンを描こうと努めているが、人生の設計が出来ずにいる。	評価基準3－0 職業生活へのビジョンを持つことの必要性は気づいているが、設計が困難である。	
	評価観点4 将来の目標の実現に向かい、具体的に行動する力	評価基準4－4 将来の目標が明確で、目標実現のための具体的なプロセスを計画的にすすめることができる。	評価基準4－3 将来の目標をはっきりと描いている。目標実現のための具体的なプロセスが明らかになっている。	評価基準4－2 将来の目標を具体化しようと努めている。自己の課題を明確にするには、さらに努力が必要である。	評価基準4－1 将来の目標を見出そうと努力しており、人生設計の必要性は認識しているが具体的に何をすればよいかを明確にするには一層の努力を必要とする。。	評価基準4－0 将来の目標があいまいで、何をすればよいか不明瞭である。	
就職活動	評価観点1 就職に関する情報を収集し、正しく理解する力	評価基準1－4 志望する業種、職種について正しく理解し、就職情勢の情報も収集しており活用できる。志望業種、職種、地域が明確であり、求人票の読み方を理解し、自分で検討を行うことができる。	評価基準1－3 志望する業種、職種、就職情勢の情報を収集している。志望業種、職種の候補をあげ、求人票から情報を得ることができる。	評価基準1－2 就職志望業種、職種の情報を収集する方法を理解している。	評価基準1－1 就職志望業種、職種について情報収集の方法を理解しようと努力しており調べている。	評価基準1－0 就職志望業種、職種を明確にできず、情報収集の方法の理解が不十分である。	基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育キャリア形成演習Ⅰ 保育キャリア形成演習Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園) オリエンテーション(2年) 就活スタートアップ講座 就職試験対策講座 就職講演会～採用試験とは？ 公務員(保育士)模擬試験 就職相談室の活用 自己実現ノート(学修ポートフォリオ) 就職活動ガイドブックの活用
	評価観点2 就職活動のスケジュール管理及び事務手続きを行う力	評価基準2－4 就職試験日程を把握し、見通しを持って試験対策や事務手続きに関するスケジュール管理を適切に行うことができる。	評価基準2－3 就職試験とそれに向けた準備のスケジュールを立て、管理することができる。	評価基準2－2 就職試験や手続きについてのスケジュールを把握することができる。	評価基準2－1 就職事務手続きの流れは理解し、大まかな就職試験の活動時期は把握している。スケジュール管理を行う方法を工夫しようと努力している。	評価基準2－0 就職事務手続きが必要なことは知っているが、内容の理解に至らない。就職活動に関するスケジュールの見通しが持てない。	
	評価観点3 就職活動のマナーを身につける力	評価基準3－4 就職活動の清潔感のある身だしなみを身につけており、正しい敬語の使い方ができ、言葉遣い、電話対応、通信文の作成も適切である。	評価基準3－3 身だしなみを整えて、就職試験に臨むことができる。言葉遣い、電話対応、通信文作成の基本マナーを身につけている。	評価基準3－2 身だしなみ、挨拶、言葉遣いを整えて、就職試験に臨むことができる。電話対応、通信文の作成の方法を身につけるために、さらに努力が必要である。	評価基準3－1 挨拶や言葉遣い、身だしなみについて自ら注意している。	評価基準3－0 就職活動の身だしなみ、言葉遣い等、注意が必要なことは知っているが、その内容の理解には至らない。	
	評価観点4 履歴書、エントリーシートを作成する力	評価基準4－4 履歴書、エントリーシートを正しく書くことができるのみならず、志望動機、自己アピールの記述が適切で採用につながる書類作成ができる。	評価基準4－3 履歴書、エントリーシートを正しく書くことができる。志望動機、自己アピールを適切に記載できる。	評価基準4－2 志望先の理解と自己理解に基づき、志望の動機、自己アピールの記載を行う努力をしている。	評価基準4－1 志望の動機、自己アピールの記載への努力をしているが、十分に自分自身を表現するには、一層の努力が必要である。	評価基準4－0 履歴書、エントリーシートの形式は理解しているが、志望の動機、自己アピールを記載できない。	
	評価観点5 就職試験対策を行い合格する力	評価基準5－4 就職試験の種類と内容を把握し、筆記、面接、実技、論作文試験対策を万全に行い、採用試験に合格することができる。	評価基準5－3 就職試験の種類と内容を把握し、筆記、面接、実技、論作文試験対策を行うことができる。	評価基準5－2 就職試験の種類と内容を把握し、どのように試験対策を行えばよいかの見通しを持つことができる。	評価基準5－1 就職志望先の就職試験の内容、出題傾向は理解しているが、準備には一層の努力を必要としている。	評価基準5－0 就職志望先の就職試験の内容は知っているが、どのような対策を行うかの見通しが持てない。	
	評価観点6 就職内定を就職後の充実した職業生活につなげる力	評価基準6－4 就職内定を得ている。就職後の勤務を想定して、自己研鑽をすすめることができる。自己の特性を理解し、就職後の充実した職業生活のための課題を見い出すことができる。	評価基準6－3 就職内定を得ている。就職後の勤務を想定し、自己研鑽を続ける意欲を持っている。就職後の充実した職業生活のための課題を見出している。	評価基準6－2 就職内定を得ている。就職後の勤務をイメージすることができ、勤務に向けての準備を行おうとしている。	評価基準6－1 就職内定を得ている。勤務に向けて準備が必要な事柄の理解が不十分である。	評価基準6－0 就職内定は得ていない。または、就職内定後勤務に向けて。準備が必要な事柄がわからない。	



埼玉東萌短期大学　『実践力のある保育者へのみちすじ』

発　行　者　　埼玉東萌短期大学
〒343-0857　埼玉県越谷市新越谷２丁目２１番地１
Tel.　048-987-2345　　Fax.　048-989-4550
URL　https://www.saitamatoho.ac.jp
発行年月日　　2026 年 4 月 1 日

学籍番号　　氏　名